

## 1 人口動態の概況（平成19年1月～12月）

### （1）出生数＜減少＞

出生数は 60,818 人で前年に比べ 383 人減少し、出生率は人口千人に対し 8.7 で、前年と比べ 0.1 ポイント低下した。

### （2）死亡数＜増加＞

死亡数は 50,134 人で前年に比べ 1,555 人増加し、死亡率は人口千人に対し 7.2 で前年と比べ 0.2 ポイント上昇した。

### （3）乳児死亡数＜減少＞

乳児死亡数は 147 人で前年に比べ 16 人減少し、乳児死亡率は出生千人に対し 2.4 で前年と比べ 0.3 ポイント低下した。

### （4）自然増加数＜減少＞

自然増加数は 10,684 人で前年に比べ 1,938 人減少し、自然増加率は人口千人に対し 1.5 で前年と比べ 0.3 ポイント低下した。

### （5）死産数＜減少＞

死産数は 1,580 胎で前年に比べ 22 胎減少し、死産率は出産(出生+死産)千人(胎)に対し 25.3 で前年と比べ 0.2 ポイント低下した。

### （6）周産期死亡数＜減少＞

周産期死亡数は 258 人(胎)で前年に比べ 55 人(胎)減少し、周産期死亡率は出産千人(胎)に対し 4.2 で前年に比べ 0.9 ポイント低下した。

### （7）婚姻件数＜減少＞

婚姻件数は 40,304 件で前年に比べ 603 件減少し、婚姻率は人口千人に対し 5.8 で前年に比べ 0.1 ポイント低下した。

### （8）離婚件数＜増加＞

離婚件数は 14,201 件で前年に比べ 84 件増加し、離婚率は人口千人に対し 2.03 で前年に比べ 0.01 ポイント上昇した。

表ー1 人口動態の概況（対前年比較）

	埼 玉 県								
	平成19年	平成18年	増 減	率			平均発生間隔		
				平成19年	平成18年	増 減	平成19年	平成18年	
							時 分 秒	時 分 秒	
出 生	60 818	61 201	△ 383	8.7	8.8	△ 0.1	8 39	8 35	
死 亡	50 134	48 579	1 555	7.2	7.0	0.2	10 29	10 49	
乳児死亡	147	163	△ 16	2.4	2.7	△ 0.3	59 35 31	53 44 32	
新生児死亡	69	78	△ 9	1.1	1.3	△ 0.2	126 57 23	112 18 28	
自然増加	10 684	12 622	△ 1 938	1.5	1.8	△ 0.3	...	...	
死 産	1 580	1 602	△ 22	25.3	25.5	△ 0.2	5 32 39	5 28 5	
周産期死亡	258	313	△ 55	4.2	5.1	△ 0.9	33 57 13	27 59 14	
婚 姻	40 304	40 907	△ 603	5.8	5.9	△ 0.1	13 2	12 51	
離 婚	14 201	14 117	84	2.03	2.02	0.01	37 1	37 14	

## 2 各 論

### (1) 出 生

#### ア 出生数及び出生率

平成 19 年の出生数は 60,818 人で前年より 383 人減少した。

年次推移をみると、昭和 48 年の 106,008 人をピークに平成 2 年まで減少し続け、その後増加と減少をくり返していた。平成 13 年から 5 年連続減少し、平成 18 年は 6 年ぶりに増加したが、平成 19 年は再び減少した。

出生率は、人口千人に対し 8.7 で前年の 8.8 を 0.1 ポイント下回った。全国 (8.6) より 0.1 ポイント上回っている。

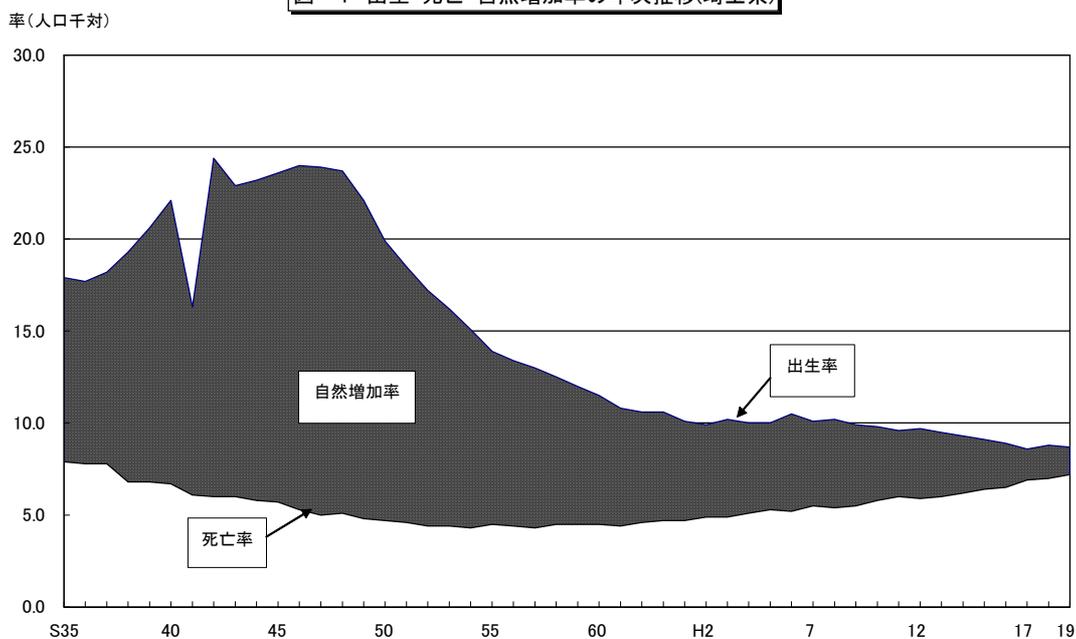
年次推移をみると、第 2 次ベビーブームの昭和 46 年の 24.0 以降低下を続け、平成元年に 10.1 となり、その後 10.0 前後で推移していた。平成 13 年から 5 年連続減少し、平成 18 年は 6 年ぶりに増加したが、平成 19 年は再び減少した。

なお、昭和 41 年にみられる出生率の低下は、丙午（ひのえうま）によるものである。

表－2 出生数及び出生率の年次推移

	S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	18	19	
数	埼玉県	43 421	66 585	91 113	96 033	75 090	67 260	63 299	67 750	66 376	59 731	61 201	60 818
	全 国	1 606 041	1 823 697	1 934 239	1 901 440	1 576 889	1 431 577	1 221 585	1 187 064	1 190 547	1 062 530	1 092 674	1 089 818
率	埼玉県	17.9	22.1	23.6	19.9	13.9	11.5	9.9	10.1	9.7	8.6	8.8	8.7
	全 国	17.2	18.6	18.8	17.1	13.6	11.9	10.0	9.6	9.5	8.4	8.7	8.6

図－1 出生・死亡・自然増加率の年次推移(埼玉県)

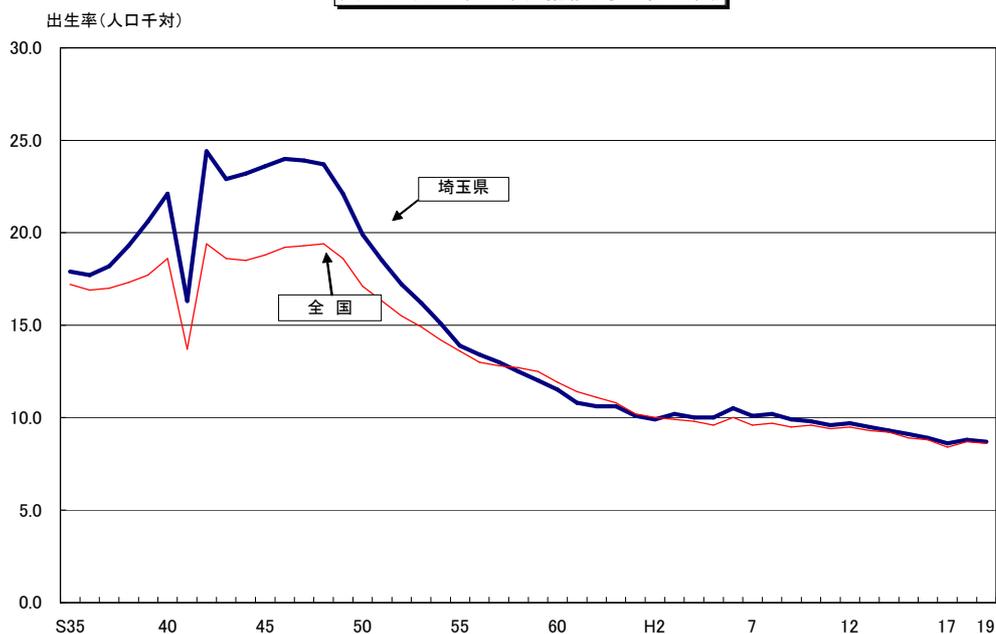


## イ 都道府県別にみた出生率

本県の出生率は、昭和 58 年から全国を下回っていたが、平成 3 年以降再び全国を上回っている。

都道府県別にみると、本県は、昭和 49 年から昭和 52 年までは、高率順で沖縄県に次いで第 2 位であった。しかし、昭和 53 年以降順位を落とし昭和 61 年には 41 位まで下がった。その後回復し、平成 7 年には 4 位となったが、近年は、平成 17 年 18 位、平成 18 年 18 位、平成 19 年 18 位となっている。

図-2 出生率の年次推移(埼玉県・全国)



表－3 都道府県別にみた出生率

	昭和60年			平成2年			平成7年			平成12年			平成17年			平成18年			平成19年		
	都道府県名	率	順位																		
高率	全国	11.9		全国	10.0		全国	9.6		全国	9.5		全国	8.4		全国	8.7		全国	8.6	
	沖縄	17.6	1	沖縄	14.0	1	沖縄	13.2	1	沖縄	12.8	1	沖縄	11.9	1	沖縄	12.1	1	沖縄	12.1	1
	福島	13.3	2	滋賀	11.2	2	愛知	10.6	2	愛知	10.8	2	滋賀	9.5	2	滋賀	9.9	2	愛知	9.8	2
	佐賀	13.1	3	佐賀	10.9	3	滋賀	10.5	3	滋賀	10.6	3	愛知	9.4	3	愛知	9.8	3	滋賀	9.7	3
	宮城	12.9	4	福島	10.8	4	埼玉	10.1	4	大阪	10.2	4	福井	8.8	4	神奈川	9.1	4	福岡	9.1	4
	宮崎	12.9	5	愛知	10.7	5	山梨	10.1	5	佐賀	10.0	5	大阪	8.8	5	福井	9.1	5	広島	9.1	5
	鹿児島	12.7	6	長崎	10.6	6	福井	10.1	6	兵庫	10.0	6	神奈川	8.8	6	福岡	9.0	6	宮崎	9.1	6
	滋賀	12.7	7	福井	10.6	7	福島	10.0	7	神奈川	9.9	7	栃木	8.7	7	大阪	9.0	7	神奈川	9.0	7
	長崎	12.7	8	鹿児島	10.5	8	大阪	10.0	8	岡山	9.8	8	佐賀	8.7	8	岡山	8.9	8	佐賀	9.0	8
	栃木	12.7	9	鳥取	10.4	9	宮崎	10.0	9	福井	9.8	9	広島	8.7	9	佐賀	8.9	9	熊本	9.0	9
	熊本	12.6	10	宮城	10.4	10	神奈川	9.9	10	石川	9.8	10	福岡	8.7	10	広島	8.9	10	静岡	9.0	10
埼玉	11.5	34	埼玉	9.9	29				埼玉	9.7	15	埼玉	8.6	18	埼玉	8.8	18	埼玉	8.7	18	
低率	富山	10.7	1	高知	8.7	1	秋田	8.2	1	秋田	7.6	1	秋田	6.7	1	秋田	6.8	1	秋田	6.7	1
	東京	10.7	2	山口	8.8	2	東京	8.4	2	北海道	8.3	2	徳島	7.3	2	青森	7.4	2	青森	7.2	2
	秋田	10.9	3	東京	8.9	3	高知	8.5	3	高知	8.4	3	青森	7.3	3	北海道	7.6	3	高知	7.3	3
	高知	11.1	4	秋田	9.0	4	山口	8.6	4	東京	8.5	4	北海道	7.4	4	高知	7.6	4	北海道	7.5	4
	京都	11.1	5	富山	9.0	5	島根	8.8	5	島根	8.6	5	高知	7.5	5	岩手	7.7	5	徳島	7.6	5

### ウ 市町村別にみた出生率

市町村別にみると、高率順では伊奈町（12.0）、戸田市（11.7）、和光市（11.5）の順である。また、低率順では、東秩父村（4.1）、鳩山町（4.1）、吉見町（4.4）の順である。

表－4 市町村別にみた出生率（高率順）

順位	市町村	出生率	順位	市町村	出生率	順位	市町村	出生率
1	伊奈町	12.0	26	蕨市	8.2	51	東松山市	7.0
2	戸田市	11.7	27	大利根町	8.2	52	川島町	6.9
3	和光市	11.5	28	熊谷市	8.1	53	飯能市	6.6
4	朝霞市	11.1	29	松伏町	8.1	54	神川町	6.6
5	滑川町	10.9	30	蓮田市	8.0	55	宮代町	6.6
6	吉川市	10.2	31	秩父市	8.0	56	嵐山町	6.3
7	富士見市	10.1	32	日高市	7.9	57	寄居町	6.1
8	川口市	9.5	33	入間市	7.8	58	幸手市	6.0
9	鳩ヶ谷市	9.5	34	三芳町	7.7	59	越生町	6.0
10	草加市	9.3	35	久喜市	7.7	60	毛呂山町	5.8
11	鶴ヶ島市	9.2	36	春日部市	7.7	61	美里町	5.7
12	上尾市	9.2	37	加須市	7.7	62	北川辺町	5.7
13	越谷市	9.1	38	桶川市	7.7	63	騎西町	5.6
14	さいたま市	9.0	39	鷲宮町	7.6	64	長瀨町	4.9
15	八潮市	9.0	40	北本市	7.6	65	菫蒲町	4.9
16	新座市	8.8	41	横瀬町	7.6	66	小川町	4.7
17	ふじみ野市	8.8	42	行田市	7.5	67	ときがわ町	4.5
18	志木市	8.7	43	本庄市	7.5	68	吉見町	4.4
19	所沢市	8.7	44	鴻巣市	7.4	69	鳩山町	4.1
20	上里町	8.6	45	白岡町	7.4	70	東秩父村	4.1
21	深谷市	8.5	46	小鹿野町	7.3			
22	三郷市	8.5	47	狭山市	7.2			
23	川越市	8.3	48	皆野町	7.2			
24	坂戸市	8.3	49	杉戸町	7.2			
25	栗橋町	8.3	50	羽生市	7.2			

注 率は人口千対

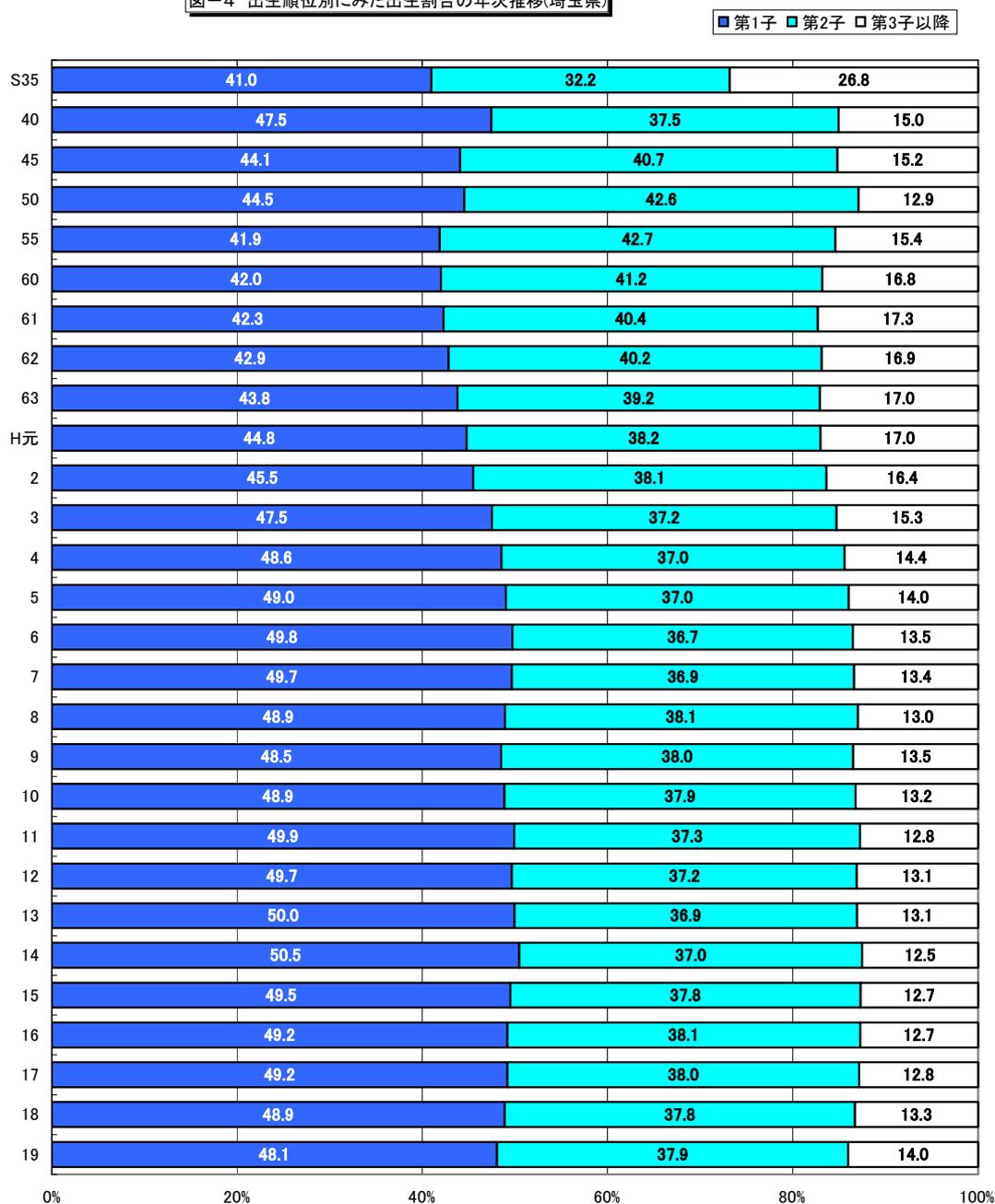
## エ 出生順位別にみた出生の動向

出生順位別に出生数の構成割合の年次推移をみると、第1子の割合は昭和60年（42.0%）から平成6年（49.8%）まで増加を続けていたが、平成7年以降は増減をくり返し、平成15年からゆるやかに減少している。

また、第2子の割合は昭和55年（42.7%）以降下降を続けていたが、平成6年以降平成8年（38.1%）をピークにやや上昇した。その後再び緩やかに下降しているが、ここ数年は38%前後で推移している。

第3子以降の割合は、5年連続して増加している。

図-4 出生順位別にみた出生割合の年次推移(埼玉県)



表－5 出生順位別にみた出生数及び構成割合の年次推移

	出 生 数						構 成 割 合					
	総 数	第1子	第2子	第3子	第4子	第5子 以 降	総 数	第1子	第2子	第3子	第4子	第5子 以 降
							%	%	%	%	%	%
昭和 35 年	43 421	17 794	13 987	6 817	2 669	2 154	100.0	41.0	32.2	15.7	6.1	5.0
40	66 585	31 602	24 975	7 438	1 699	871	100.0	47.5	37.5	11.2	2.5	1.3
45	91 113	40 199	37 067	11 411	1 768	668	100.0	44.1	40.7	12.5	2.0	0.7
50	96 033	42 762	40 901	10 521	1 376	473	100.0	44.5	42.6	11.0	1.4	0.5
55	75 090	31 468	32 049	10 060	1 172	341	100.0	41.9	42.7	13.4	1.6	0.4
60	67 260	28 252	27 684	9 749	1 271	304	100.0	42.0	41.2	14.5	1.9	0.4
61	64 392	27 236	26 020	9 533	1 258	345	100.0	42.3	40.4	14.8	2.0	0.5
62	64 496	27 647	25 956	9 347	1 201	345	100.0	42.9	40.2	14.5	1.9	0.5
63	65 396	28 638	25 612	9 512	1 280	354	100.0	43.8	39.2	14.5	2.0	0.5
平成 元 年	63 419	28 431	24 247	9 159	1 269	313	100.0	44.8	38.2	14.5	2.0	0.5
2	63 299	28 806	24 120	8 852	1 234	287	100.0	45.5	38.1	14.0	1.9	0.5
3	65 928	31 353	24 513	8 453	1 313	296	100.0	47.5	37.2	12.8	2.0	0.5
4	65 219	31 674	24 141	7 928	1 154	322	100.0	48.6	37.0	12.1	1.8	0.5
5	66 268	32 499	24 506	7 828	1 137	298	100.0	49.0	37.0	11.8	1.7	0.5
6	69 776	34 714	25 636	7 960	1 169	297	100.0	49.8	36.7	11.4	1.7	0.4
7	67 750	33 651	24 985	7 619	1 229	266	100.0	49.7	36.9	11.2	1.8	0.4
8	68 695	33 612	26 163	7 400	1 229	291	100.0	48.9	38.1	10.8	1.8	0.4
9	67 585	32 803	25 663	7 673	1 146	300	100.0	48.5	38.0	11.4	1.7	0.4
10	67 144	32 796	25 458	7 421	1 145	324	100.0	48.9	37.9	11.0	1.7	0.5
11	65 711	32 800	24 531	7 028	1 050	302	100.0	49.9	37.3	10.7	1.6	0.5
12	66 376	32 976	24 707	7 147	1 240	306	100.0	49.7	37.2	10.8	1.9	0.4
13	65 417	32 698	24 169	7 067	1 159	324	100.0	50.0	36.9	10.8	1.8	0.5
14	64 762	32 721	23 922	6 690	1 089	340	100.0	50.5	37.0	10.3	1.7	0.5
15	63 224	31 303	23 896	6 633	1 083	309	100.0	49.5	37.8	10.5	1.7	0.5
16	61 946	30 465	23 604	6 493	1 095	289	100.0	49.2	38.1	10.5	1.8	0.4
17	59 731	29 389	22 669	6 318	1 012	343	100.0	49.2	38.0	10.6	1.7	0.5
18	61 201	29 931	23 133	6 650	1 156	331	100.0	48.9	37.8	10.9	1.9	0.5
19	60 818	29 232	23 050	6 935	1 222	379	100.0	48.1	37.9	11.4	2.0	0.6

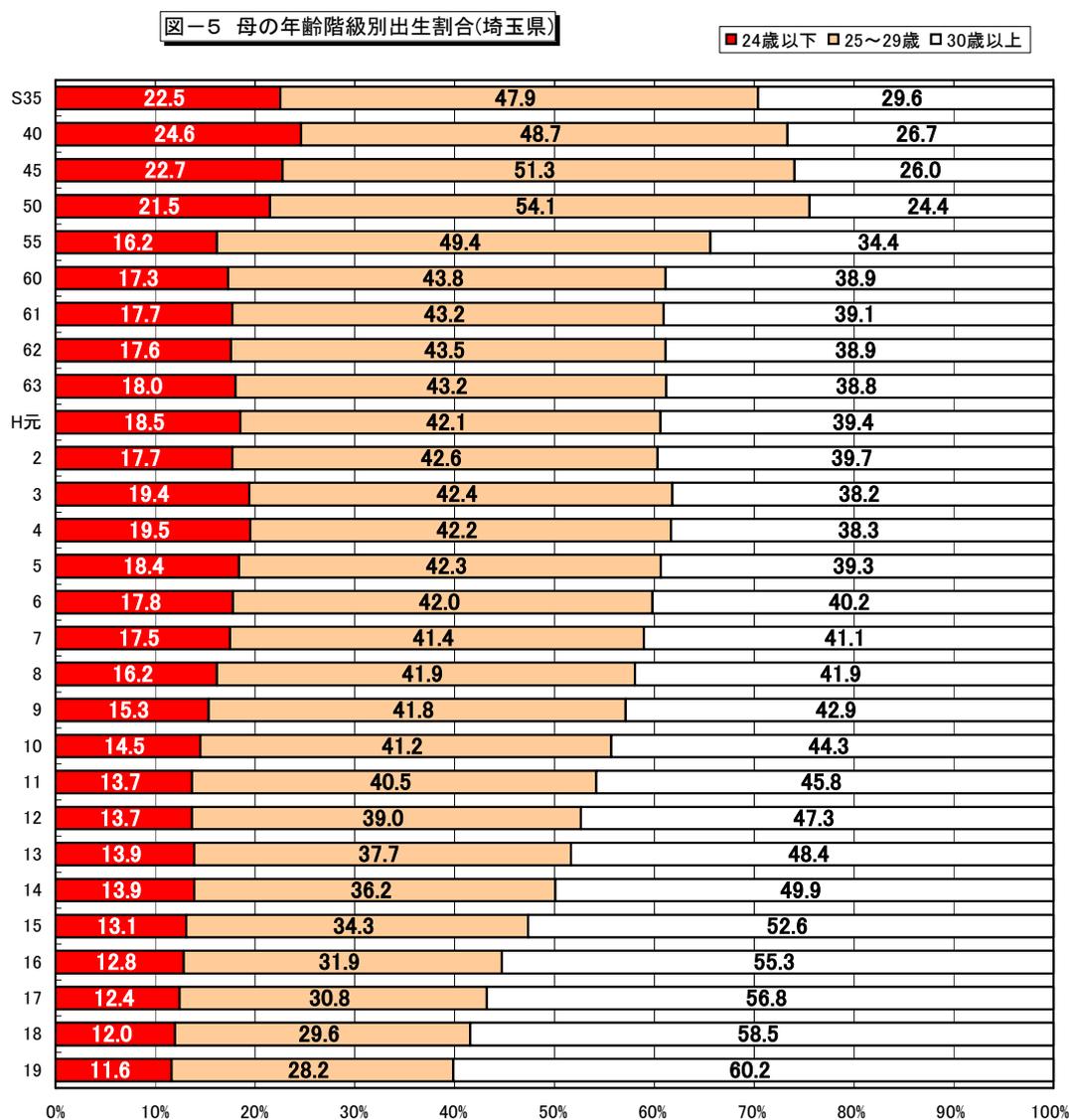
注 第5子以降には不詳を含む

## オ 母の年齢階級別にみた出生の動向

母の年齢階級別に出生数の構成割合をみると、25～29歳の母からの出生は昭和51年の57.0%をピークとして減少しており、平成19年は28.2%である。

また、24歳以下は平成5年以降減少傾向にあり、平成19年は11.6%で過去最低となった。

30歳以上は増加を続け、平成15年から過半数を超えており、平成19年は60.2%で過去最高となった。



## (2) 死 亡

### ア 死亡数及び死亡率

死亡数は50,134人で、前年より1,555人増加した。

死亡率は、人口千人に対し7.2で前年の7.0を0.2ポイント上回った。全国(8.8)より1.6ポイント低くなっている。

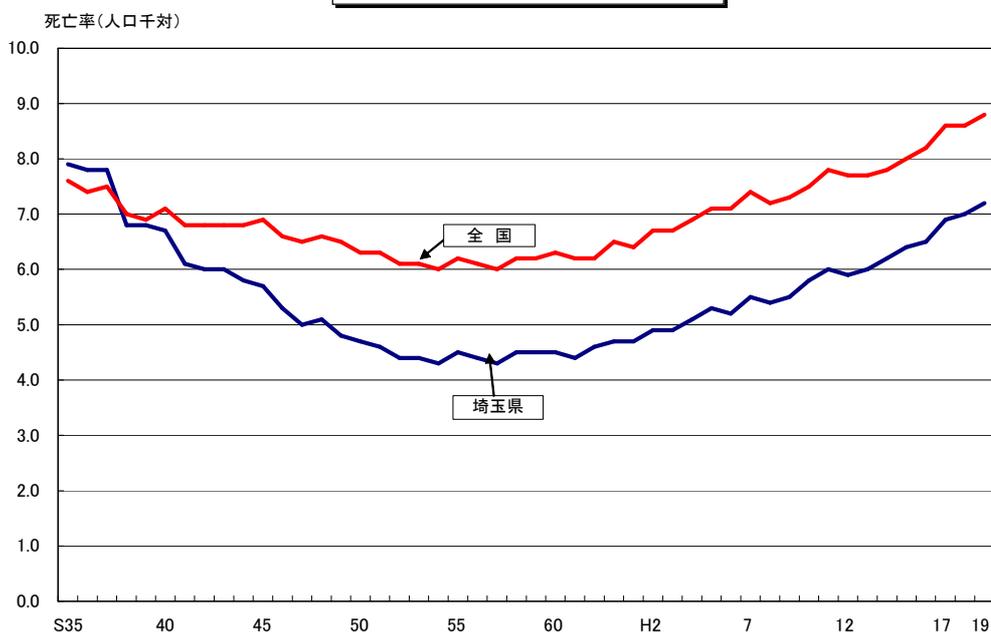
死亡率の年次推移をみると、昭和35年7.9、45年5.7、50年4.7、55年4.5と低下し、以降4.5前後で推移していたが、昭和61年以降上昇傾向に転じた。

都道府県別にみると、本県の死亡率は昭和60年以降平成13年まで、昭和62年を除き低率順で第1位、平成14、15年は沖縄県に次いで第2位、16年からは沖縄県及び神奈川県に次いで第3位となっている。

表一 6 死亡数及び死亡率の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	18	19
数	埼玉県	19 089	20 117	21 836	22 688	24 129	26 417	31 222	36 799	40 486	48 095	48 579	50 134
	全国	706 599	700 438	712 962	702 275	722 801	752 283	820 305	922 139	961 653	1 083 796	1 084 450	1 083 334
率	埼玉県	7.9	6.7	5.7	4.7	4.5	4.5	4.9	5.5	5.9	6.9	7.0	7.2
	全国	7.6	7.1	6.9	6.3	6.2	6.3	6.7	7.4	7.7	8.6	8.6	8.8

図一 6 死亡率の年次推移(埼玉県・全国)



## イ 死因別死亡数及び死亡率

死因別にみると、死亡数は、①悪性新生物 16,007 人(死亡総数の 31.9%)、②心疾患 8,523 人(17.0%)、③脳血管疾患 5,728 人(11.4%)、④肺炎 4,960 人(9.9%)、⑤自殺 1,585 人(3.2%)、⑥不慮の事故 1,460 人(2.9%)となった。

また、死亡率(人口 10 万対)は、悪性新生物(228.6)が 6.2 ポイント、心疾患(121.7)が 2.0 ポイント、肺炎(70.8)が 4.2 ポイント、自殺(22.6)が 1.8 ポイント上昇した一方、脳血管疾患(81.8)が 0.6 ポイント、不慮の事故(20.8)が 0.3 ポイント低下した。

表－7 主な死因別死亡数及び死亡率(対前年比較)

埼玉県

死 因	平成19年			平成18年		
	数	率(人口 10万対)	死亡総数に 占める割合	数	率(人口 10万対)	死亡総数に 占める割合
総 数	50 134	715.9	100.0	48 579	695.1	100.0
悪性新生物	16 007	228.6	31.9	15 547	222.4	32.0
心 疾 患	8 523	121.7	17.0	8 367	119.7	17.2
脳血管疾患	5 728	81.8	11.4	5 760	82.4	11.9
肺 炎	4 960	70.8	9.9	4 652	66.6	9.6
自 殺	1 585	22.6	3.2	1 452	20.8	3.0
不慮の事故	1 460	20.8	2.9	1 475	21.1	3.0
老 衰	1 144	16.3	2.3	994	14.2	2.0
腎 不 全	871	12.4	1.7	840	12.0	1.7
肝 疾 患	783	11.2	1.6	739	10.6	1.5
糖 尿 病	694	9.9	1.4	624	8.9	1.3
小 計	41 755	596.2	83.3	40 450	578.8	83.3
そ の 他	8 379	119.6	16.7	8 129	116.3	16.7

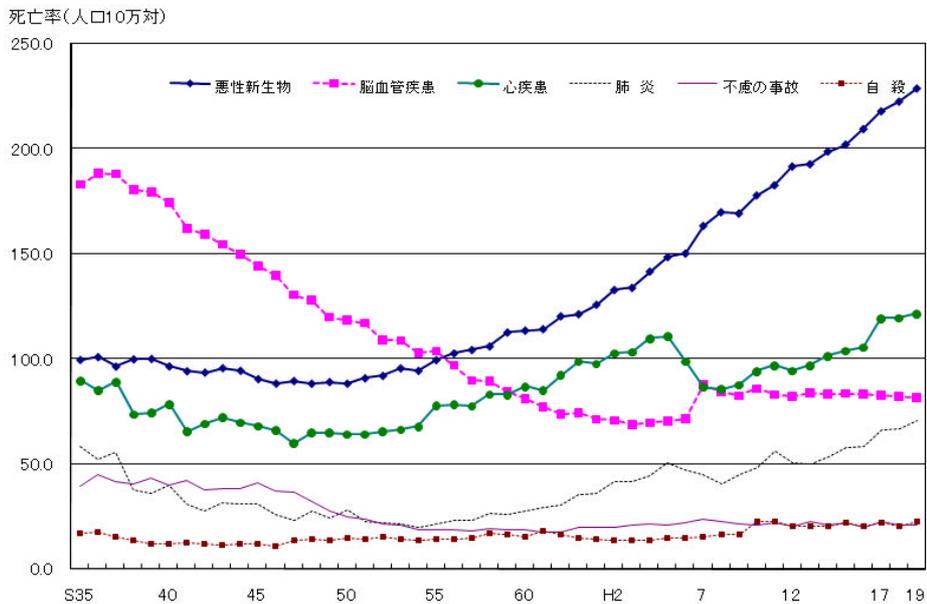
死因別に死亡率（人口 10 万対）の年次推移をみると、悪性新生物は昭和 55 年以降概ね上昇を続け、平成 15 年には 200.0 を超えた。また、昭和 56 年以降は死因順位第 1 位である。

心疾患は、緩やかに上昇しており、平成 14 年から 100.0 を越えている。

脳血管疾患は緩やかな低下傾向にある。

なお、平成 6・7 年の心疾患及び脳血管疾患の著しい変動は、死亡傾向が急激に変化したものではなく、死因分類（ICD-10）及び死亡診断書の改正によるものと考えられる。

図-7 主要死因別死亡率の年次推移(埼玉県)



※ 死因分類(ICD-10)及び死亡診断書の改正による影響

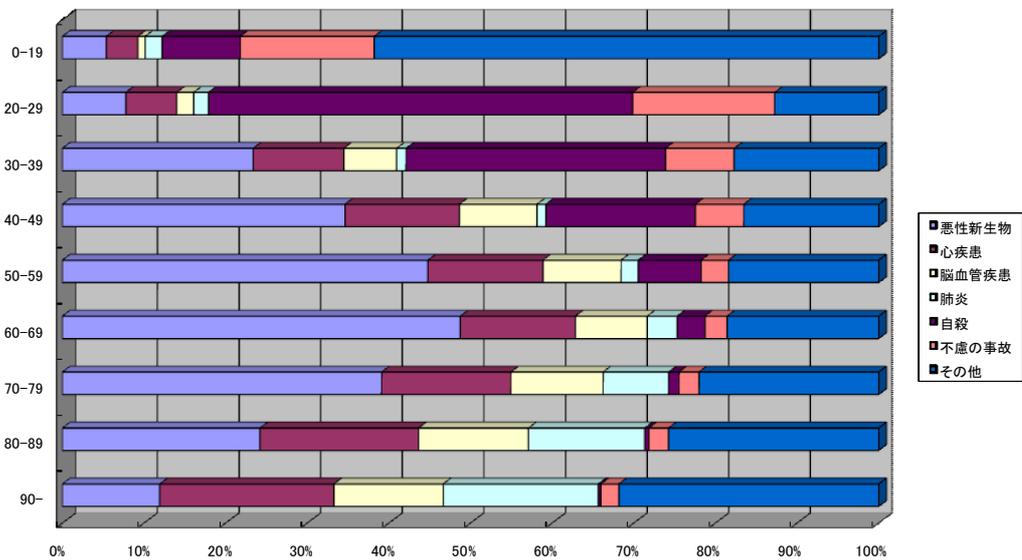
心疾患の平成 6 年から 3 年間は、大きく前年を下回っている。この低下は、平成 7 年 1 月施行の新しい死亡診断書（死体検案書）における注意書き「死亡の原因欄には、疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください」の影響が考えられる。

脳血管疾患は、平成 7 年は前年を大きく上回った。これは、死因分類の改正で、肺炎に影響を与えた疾患として脳出血を死亡原因とするようになった影響が考えられる。

なお、逆に肺炎は減少している。

年齢階級別に死因別割合をみると、10歳代まででは不慮の事故、20歳代、30歳代では自殺、40～80歳代では悪性新生物、90歳以上では心疾患の割合が最も高くなっている。

図-8 年齢階級別にみた主要死因別割合



### ウ 3大死因（悪性新生物、心疾患、脳血管疾患）

死因別死亡数の上位を占める3大死因（悪性新生物、心疾患、脳血管疾患）による死亡数は30,258人で死亡総数の60.4%を占めている。

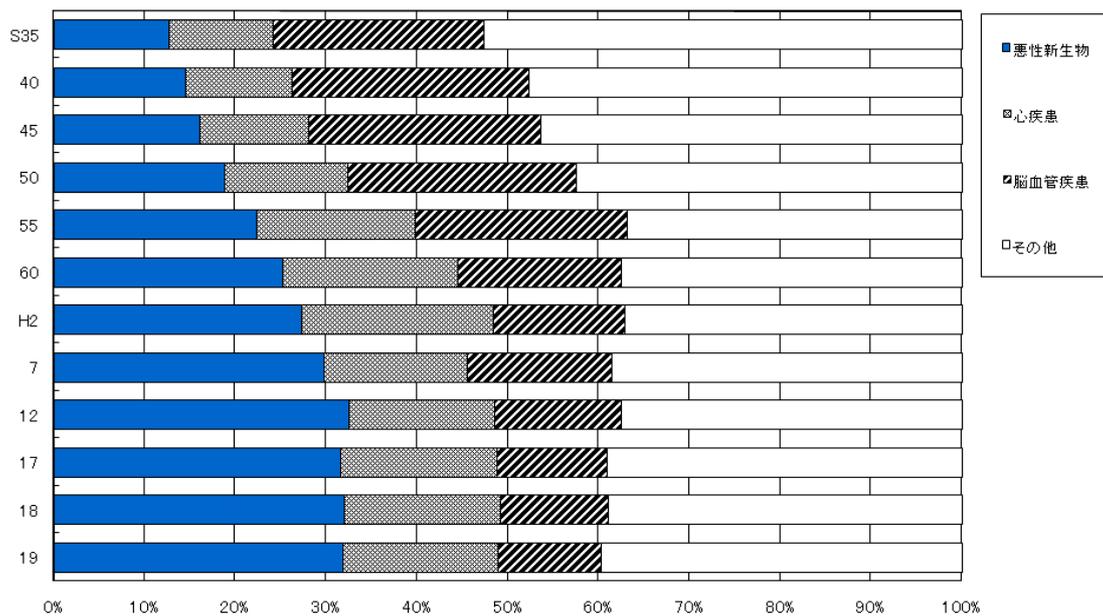
年齢階級別に3大死因による死亡数をみると、70～79歳の8,594人が最も多く、80～89歳の8,350人、60～69歳の5,848人の順である。

各年齢階級別の死亡総数に占める割合をみると、60～69歳が71.6%で最も高く、次いで50～59歳の68.5%、70～79歳の66.2%の順で前年と変わらない。

表ー8 3大死因による死亡数及び割合（年齢階級別）

埼 玉 県										
	総数	0～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～89	90～
死亡総数	50 134	335	385	774	1 398	4 048	8 162	12 974	14 623	7 435
3大死因による死亡数	30 258	34	62	317	813	2 771	5 848	8 594	8 350	3 469
(各年齢階級別割合)	100.0%	0.1%	0.2%	1.0%	2.7%	9.2%	19.3%	28.4%	27.6%	11.5%
死亡総数に占める割合	60.4%	10.1%	16.1%	41.0%	58.2%	68.5%	71.6%	66.2%	57.1%	46.7%

図ー9 3大死因死亡数の死亡総数に占める割合(埼玉県)



(ア) 悪性新生物（がん）

悪性新生物による死亡数は 16,007 人で、死亡総数の 31.9 %を占めている。全死亡者のおよそ 3 人に 1 人は悪性新生物で死亡したことになる。

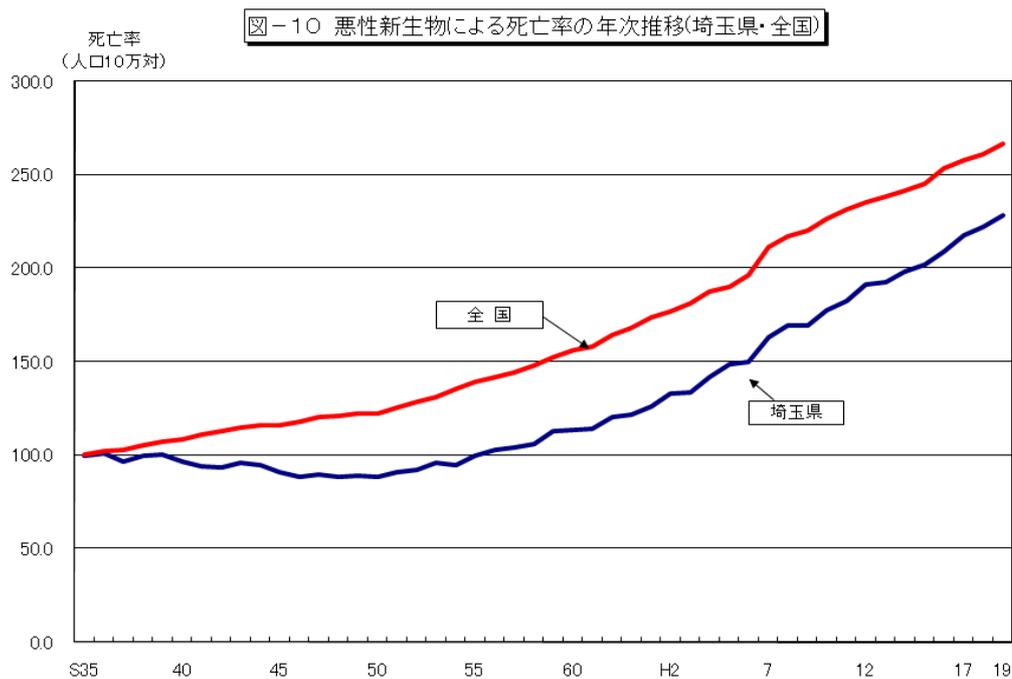
年齢階級別にみると、70～79 歳が 5,074 人で最も多く、60～69 歳が 3,980 人、80～89 歳が 3,540 人の順となっている。

また、各年齢階級の死亡総数に占める割合をみると、60～69 歳が 48.8%と最も多く、50～59 歳 44.8%、70～79 歳 39.1%の順となっている。

死亡率（人口 10 万対）は、228.6 で上昇を続けている。全国は 266.9 である

表－9 悪性新生物による死亡数及び割合（年齢階級別）

埼 玉 県										
	総数	0～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～89	90～
死亡総数	50 134	335	385	774	1 398	4 048	8 162	12 974	14 623	7 435
悪性新生物による死亡数	16 007	18	30	181	484	1 813	3 980	5 074	3 540	887
(各年齢階級別割合)	100.0%	0.1%	0.2%	1.1%	3.0%	11.4%	24.9%	31.7%	22.1%	5.5%
死亡総数に占める割合	31.9%	5.4%	7.8%	23.4%	34.6%	44.8%	48.8%	39.1%	24.2%	11.9%



部位別にみると、「気管・気管支及び肺」が 3,009 人(18.8%)で最も多く、次いで「胃」が 2,601 人(16.3%)、「大腸」2,114 人(13.2%)の順となっている。

図-11 悪性新生物の部位別割合の推移(埼玉県)

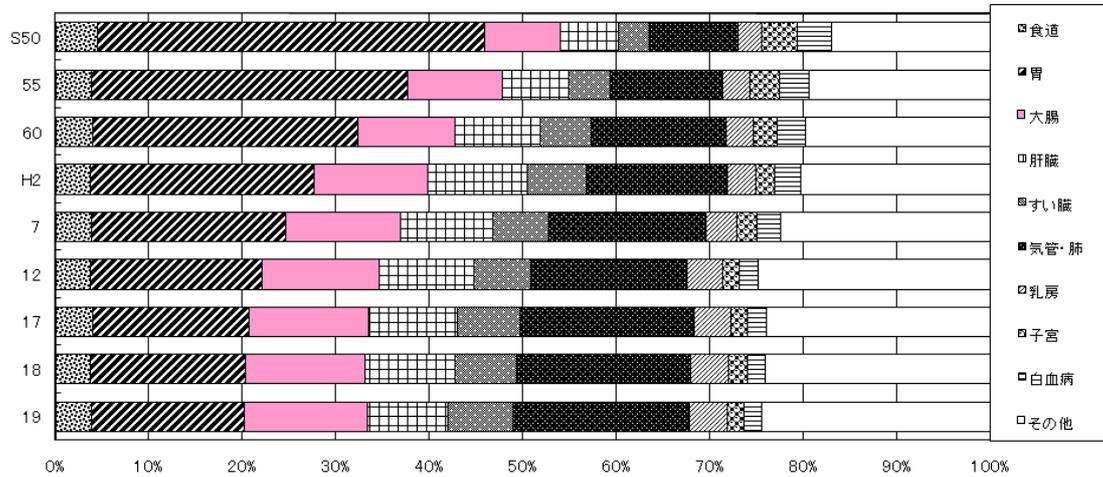


表-10 悪性新生物部位別死亡数及び割合の年次推移

	埼玉県											
	S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	18	19
総数	2 426	2 914	3 508	4 265	5 404	6 665	8 518	10 942	13 163	15 190	15 547	16 007
食道	120	142	183	192	207	264	321	420	500	614	572	623
胃	1 272	1 393	1 535	1 763	1 830	1 891	2 036	2 268	2 450	2 534	2 579	2 601
大腸	...	...	...	346	542	694	1 031	1 344	1 670	1 929	2 004	2 114
(結腸)	...	...	...	178	290	410	664	878	1 101	1 283	1 324	1 384
(直腸)	63	106	130	168	252	284	367	466	569	646	680	730
肝臓	229	222	249	266	383	604	912	1 088	1 344	1 443	1 479	1 381
すい臓	42	66	106	139	240	366	532	647	825	1 019	1 033	1 119
気管・気管支及び肺	95	174	281	407	652	958	1 292	1 846	2 215	2 829	2 893	3 009
乳房	40	38	77	110	158	199	253	362	511	607	621	660
子宮	138	159	139	160	170	166	176	228	236	261	318	276
白血病	58	84	98	158	169	200	230	287	276	302	304	311
その他	369	530	710	724	1 053	1 323	1 735	2 452	3 136	3 652	3 744	3 913
総数	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
食道	5.0	4.9	5.2	4.5	3.8	4.0	3.8	3.8	3.8	4.1	3.7	3.9
胃	52.4	47.8	43.8	41.3	33.9	28.4	23.9	20.7	18.6	16.7	16.6	16.3
大腸	...	...	...	8.1	10.1	10.3	12.1	12.3	12.7	12.7	12.9	13.2
(結腸)	...	...	...	4.2	5.4	6.1	7.8	8.0	8.4	8.4	8.5	8.6
(直腸)	2.6	3.6	3.7	3.9	4.7	4.2	4.3	4.3	4.3	4.3	4.4	4.6
肝臓	9.4	7.6	7.1	6.2	7.1	9.1	10.7	10.0	10.2	9.5	9.5	8.6
すい臓	1.7	2.3	3.0	3.3	4.4	5.5	6.2	5.9	6.3	6.7	6.6	7.0
気管・気管支及び肺	3.9	6.0	8.0	9.5	12.1	14.4	15.2	16.9	16.8	18.6	18.6	18.8
乳房	1.7	1.3	2.2	2.6	2.9	3.0	3.0	3.3	3.9	4.0	4.0	4.1
子宮	5.7	5.4	4.0	3.8	3.1	2.5	2.0	2.1	1.8	1.7	2.0	1.7
白血病	2.4	2.9	2.8	3.7	3.1	3.0	2.7	2.6	2.1	2.0	2.0	1.9
その他	15.2	18.2	20.2	17.0	19.5	19.8	20.4	22.4	23.8	24.0	24.1	24.5

## (イ) 心疾患

心疾患による死亡数は8,523人で、死亡総数の17.0%を占めている。

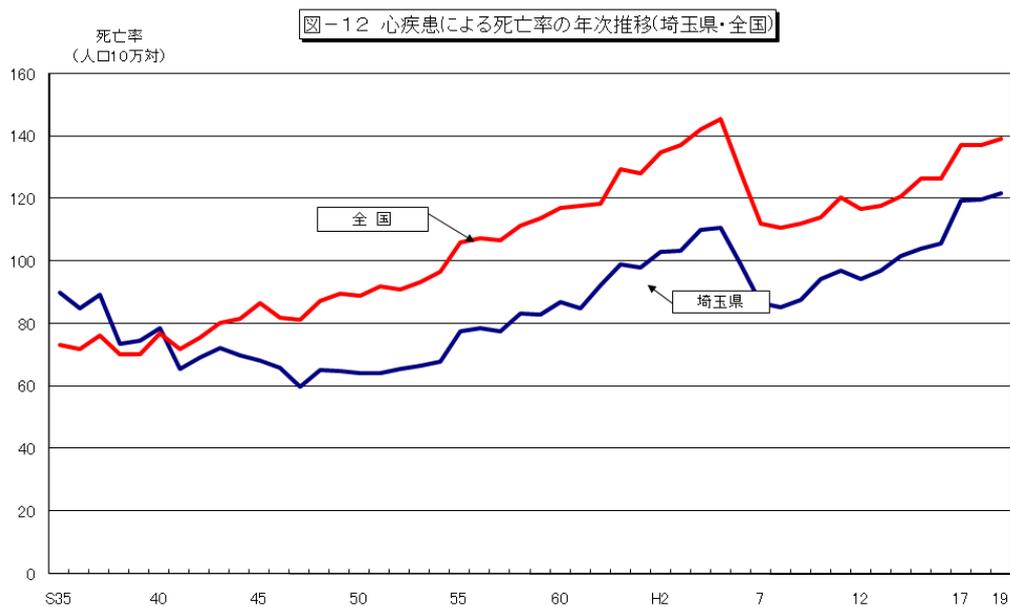
年齢階級別にみると、80～89歳が2,841人で最も多く、70～79歳が2,056人、90歳以上が1,587人の順となっている。

また、各年齢階級の死亡総数に占める割合は、90歳以上が21.3%で最も多く、80～89歳が19.4%、70～79歳が15.8%の順となっている。

死亡率（人口10万対）は、121.7で上昇を続けている。全国は139.2である。

埼 玉 県										
	総数	0～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～89	90～
死亡総数	50 134	335	385	774	1 398	4 048	8 162	12 974	14 623	7 435
心疾患による死亡数	8 523	13	24	86	196	570	1 150	2 056	2 841	1 587
(各年齢階級別割合)	100.0%	0.2%	0.3%	1.0%	2.3%	6.7%	13.5%	24.1%	33.3%	18.6%
死亡総数に占める割合	17.0%	3.9%	6.2%	11.1%	14.0%	14.1%	14.1%	15.8%	19.4%	21.3%

表－11 心疾患による死亡数及び割合（年齢階級別）



### (ウ) 脳血管疾患

脳血管疾患による死亡数は5,728人で、死亡総数の11.4%を占めている。

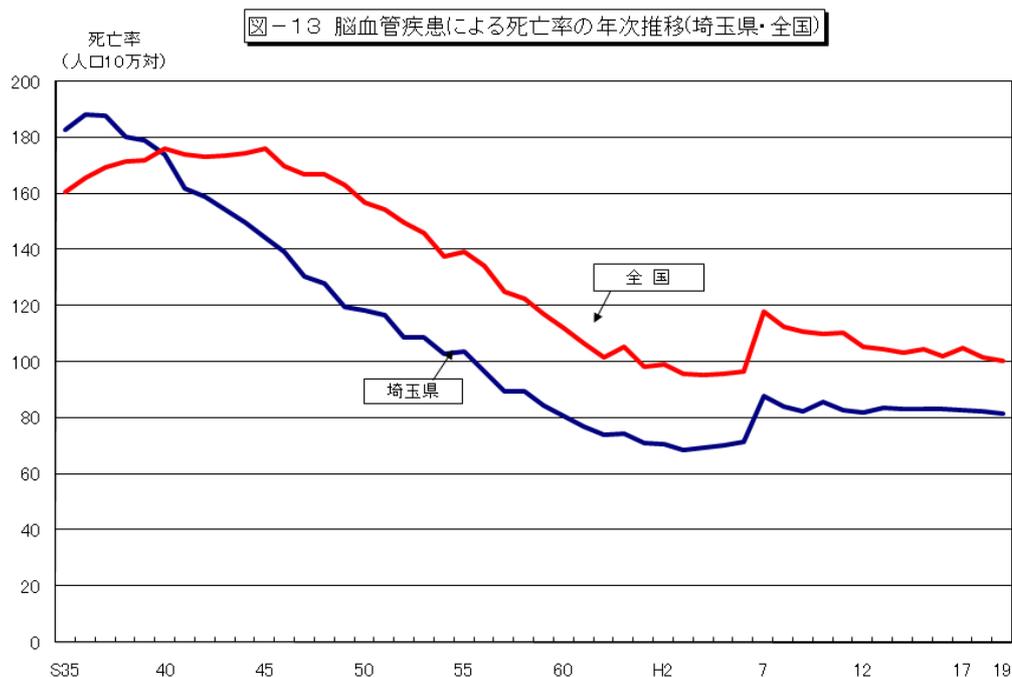
年齢階級別にみると、80～89歳が1,969人で最も多く、70～79歳が1,464人、90歳以上が995人の順となっている。

また、各年齢階級の死亡総数に占める割合は、80～89歳が13.5%で最も多く、90歳以上が13.4%、70～79歳が11.3%の順となっている。

死亡率（人口10万対）は、81.8で近年は横ばいに推移している。全国は100.8である。

表－12 脳血管疾患による死亡数及び割合（年齢階級別）

埼玉県										
	総数	0～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～89	90～
死亡総数	50 134	335	385	774	1 398	4 048	8 162	12 974	14 623	7 435
脳血管疾患による死亡数	5 728	3	8	50	133	388	718	1 464	1 969	995
（各年齢階級別割合）	100.0%	0.1%	0.1%	0.9%	2.3%	6.8%	12.5%	25.5%	34.4%	17.4%
死亡総数に占める割合	11.4%	0.9%	2.1%	6.5%	9.5%	9.6%	8.8%	11.3%	13.5%	13.4%



## エ 不慮の事故

不慮の事故による死亡数は1,460人で、前年に比べ15人減少した。

死亡率は、人口10万人に対し20.8で前年より0.3ポイント低下した。

年齢階級別にみると、80～89歳が352人で最も多く、0～19歳が55人で最も少なくなっている。

不慮の事故のうち交通事故による死亡数は354人で、前年に比べ58人減少した。

死亡率は、人口10万人に対し5.1で前年に比べ0.8ポイント低下した。

全国は、不慮の事故30.1、交通事故6.6である。

表－13 不慮の事故、交通事故による死亡数及び割合（年齢階級別）

埼 玉 県										
	総数	0～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～89	90～
不慮の事故による死亡数	1 460	55	67	65	83	135	222	318	352	163
(各年齢階級別割合)	100.0%	3.8%	4.6%	4.4%	5.7%	9.2%	15.2%	21.8%	24.1%	11.2%
不慮の事故のうち交通事故による死亡数	354	28	41	32	25	41	64	75	40	8
不慮の事故に占める交通事故の割合	24.2%	50.9%	61.2%	49.2%	30.1%	30.4%	28.8%	23.6%	11.4%	4.9%

表－14 不慮の事故、交通事故による死亡数の年次推移

	不慮の事故					交通事故				
	埼玉県		全 国		埼玉県			全 国		不慮の事故に占める割合
	数	死亡率(人口10万対)	数	死亡率(人口10万対)	数	死亡率(人口10万対)	数	死亡率(人口10万対)		
S 35	970	39.9	38 964	41.7	468	19.3	48.2	13 429	14.4	34.5
40	1 207	40.0	40 188	40.9	671	20.3	55.6	16 257	16.5	40.5
45	1 599	41.4	43 802	42.5	983	25.4	61.5	21 535	20.9	49.2
50	1 201	24.9	33 710	30.3	628	13.0	52.3	14 206	12.8	42.1
55	1 018	18.8	29 217	25.1	488	9.0	47.9	11 752	10.1	40.2
60	1 085	18.5	29 597	24.6	587	10.0	54.1	12 660	10.5	42.8
H 2	1 262	19.7	32 122	26.2	703	11.0	55.7	14 631	11.9	45.5
7	1 575	23.5	45 323	36.5	683	10.2	43.4	15 147	12.2	33.4
12	1 405	20.4	39 484	31.4	541	7.9	38.5	12 857	10.2	32.6
13	1 570	22.7	39 496	31.4	568	8.2	36.2	12 378	9.8	31.3
14	1 442	20.8	38 643	30.7	491	7.1	34.0	11 743	9.3	30.4
15	1 548	22.3	38 714	30.7	538	7.7	34.8	10 913	8.7	28.2
16	1 385	19.9	38 193	30.3	421	6.0	30.4	10 551	8.4	27.6
17	1 577	22.6	39 863	31.6	472	6.8	29.9	10 028	7.9	25.2
18	1 475	21.1	38 270	30.3	412	5.9	27.9	9 048	7.2	25.2
19	1 460	20.8	37 966	30.1	354	5.1	24.2	8 268	6.6	21.8

注 昭和35年から平成2年は「自動車事故」の数、平成7年以降は「交通事故」の数である。

## オ 自殺

自殺による死亡数は 1,585 人(男性 1,103 人、女性 482 人)で、前年より 133 人増加した。死亡率は、人口 10 万人に対し 22.6 で、前年の 20.8 を 1.8 ポイント上回った。

年齢階級別にみると、50～59 歳が 312 人(19.7%)で最も多く、次いで 60～69 歳が 278 人(17.5%)となっている。年次推移をみると 40～49 歳、60～69 歳、70 歳以上の年齢階級で増加傾向を示している。

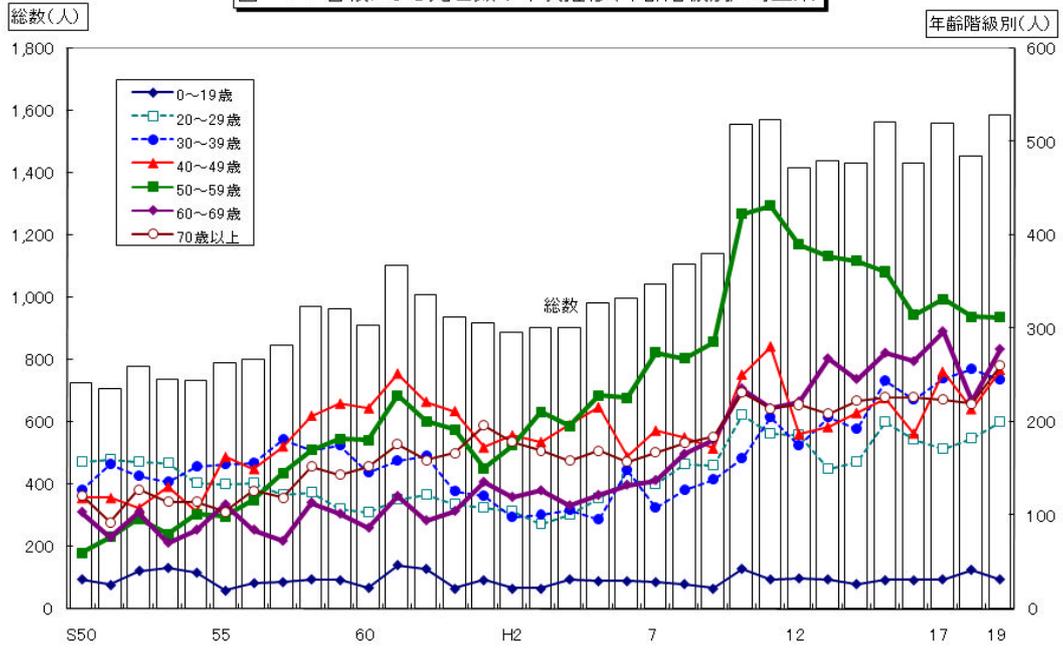
表－15 自殺による死亡数及び死亡率の年次推移

		埼玉県											
		S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	18	19
数	埼玉県	413	375	480	723	787	909	885	1 043	1 414	1 559	1 452	1 585
	全国	20 143	14 444	15 728	19 975	20 542	23 383	20 088	21 420	30 251	30 553	29 921	30 827
率	埼玉県	17.0	12.4	12.4	15.0	14.5	15.5	13.8	15.6	20.6	22.4	20.8	22.6
	全国	21.6	14.7	15.3	18.0	17.7	19.4	16.4	17.2	24.1	24.2	23.7	24.4

表－16 自殺による死亡数及び割合の年次推移（年齢階級別）

		埼玉県							
		総数	0～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
		人	人	人	人	人	人	人	人
S	35	413	47	143	45	37	44	47	50
	40	375	32	88	65	36	37	59	58
	45	480	28	117	81	53	57	62	82
	50	723	32	158	128	119	60	104	122
	55	787	20	134	155	163	99	112	104
	60	909	23	104	146	215	181	87	153
H	2	885	22	105	98	186	175	120	179
	7	1 043	29	134	108	191	275	138	168
	12	1 414	33	187	175	187	391	222	219
	17	1 559	32	172	247	254	332	297	225
	18	1 449	42	183	256	214	313	222	219
	19	1 585	32	200	246	256	312	278	261
S	35	100.0	11.4	34.6	10.9	9.0	10.6	11.4	12.1
	40	100.0	8.5	23.5	17.3	9.6	9.9	15.7	15.5
	45	100.0	5.8	24.4	16.9	11.0	11.9	12.9	17.1
	50	100.0	4.4	21.8	17.7	16.5	8.3	14.4	16.9
	55	100.0	2.6	17.0	19.7	20.7	12.6	14.2	13.2
	60	100.0	2.5	11.4	16.1	23.7	19.9	9.6	16.8
H	2	100.0	2.5	11.9	11.1	21.0	19.8	13.5	20.2
	7	100.0	2.8	12.8	10.4	18.3	26.4	13.2	16.1
	12	100.0	2.3	13.2	12.4	13.2	27.7	15.7	15.5
	17	100.0	2.1	11.0	15.8	16.3	21.3	19.1	14.4
	18	100.0	2.9	12.6	17.7	14.8	21.6	15.3	15.1
	19	100.0	2.0	12.6	15.5	16.2	19.7	17.5	16.5

図-14 自殺による死亡数の年次推移(年齢階級別)(埼玉県)



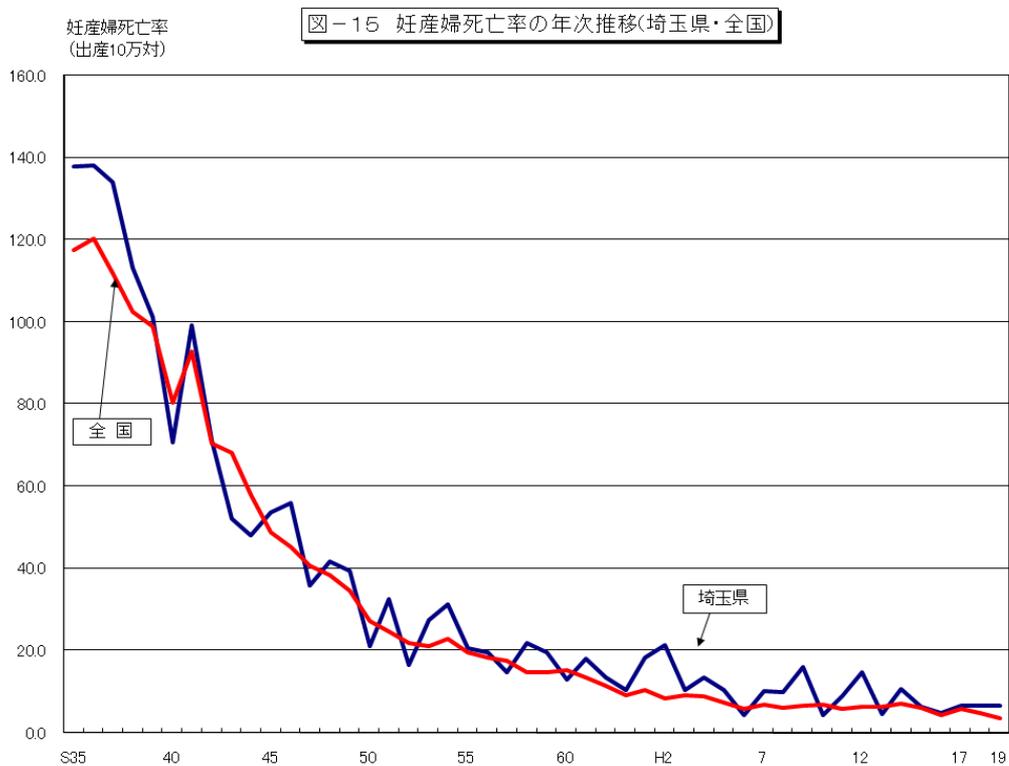
## カ 妊産婦死亡

妊産婦死亡は、4人で前年と同数であった。妊産婦死亡率は、出産10万人（胎）に対し6.4で前年と変わらない。

表－17 妊産婦死亡数及び死亡率の年次推移

		埼 玉 県											
		S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	18	19
数	埼玉県	65	50	51	21	16	9	14	7	10	4	4	4
	全 国	2 097	1 597	1 008	546	323	226	105	85	78	62	54	39
率	埼玉県	137.7	70.6	53.5	21.0	20.5	12.9	21.3	10.0	14.6	6.5	6.4	6.4
	全 国	117.5	80.4	48.7	27.3	19.5	15.1	8.2	6.9	6.3	5.7	4.8	3.5

注 率は出産（出生＋死産）10万対。平成19年の妊産婦死亡数は死因分類番号15000「妊娠、分娩及び産じよく」の数を用いた。



キ 市町村別にみた死亡

市町村別にみると、低率順では和光市(4.3)、伊奈町(5.5)、戸田市(5.5)の順である。また、高率順では、東秩父村(13.7)、神川町(12.9)、横瀬町(12.8)の順である。

表－18 市町村別にみた死亡率（低率順）

順位	市町村	死亡率	順位	市町村	死亡率	順位	市町村	死亡率
1	和光市	4.3	26	川口市	7.0	51	幸手市	8.9
2	伊奈町	5.5	27	久喜市	7.1	52	深谷市	9.0
3	戸田市	5.5	28	鷲宮町	7.1	53	鳩山町	9.3
4	朝霞市	5.6	29	ふじみ野市	7.1	54	騎西町	9.4
5	鶴ヶ島市	5.7	30	春日部市	7.2	55	羽生市	9.6
6	志木市	5.9	31	宮代町	7.2	56	寄居町	9.8
7	新座市	6.0	32	東松山市	7.2	57	本庄市	9.9
8	富士見市	6.0	33	鳩ヶ谷市	7.3	58	嵐山町	10.1
9	所沢市	6.1	34	鴻巣市	7.4	59	大利根町	10.2
10	上尾市	6.2	35	蓮田市	7.4	60	菖蒲町	10.3
11	草加市	6.2	36	白岡町	7.5	61	越生町	11.4
12	松伏町	6.2	37	滑川町	7.6	62	美里町	11.5
13	八潮市	6.3	38	杉戸町	7.7	63	長瀨町	12.1
14	さいたま市	6.3	39	毛呂山町	8.1	64	秩父市	12.2
15	三芳町	6.5	40	加須市	8.1	65	ときがわ町	12.4
16	三郷市	6.5	41	日高市	8.2	66	皆野町	12.4
17	越谷市	6.5	42	蕨市	8.2	67	小鹿野町	12.8
18	入間市	6.6	43	上里町	8.3	68	横瀬町	12.8
19	桶川市	6.6	44	熊谷市	8.4	69	神川町	12.9
20	栗橋町	6.7	45	吉見町	8.4	70	東秩父村	13.7
21	北本市	6.7	46	北川辺町	8.5			
22	吉川市	6.8	47	川島町	8.6			
23	狭山市	6.9	48	行田市	8.6			
24	坂戸市	6.9	49	飯能市	8.6			
25	川越市	7.0	50	小川町	8.8			

注 率は人口千対

### (3) 乳児死亡及び新生児死亡

乳児死亡数は147人で、前年より16人減少した。乳児死亡率は、出生千人に対し2.4で前年の2.7を0.3ポイント下回った。

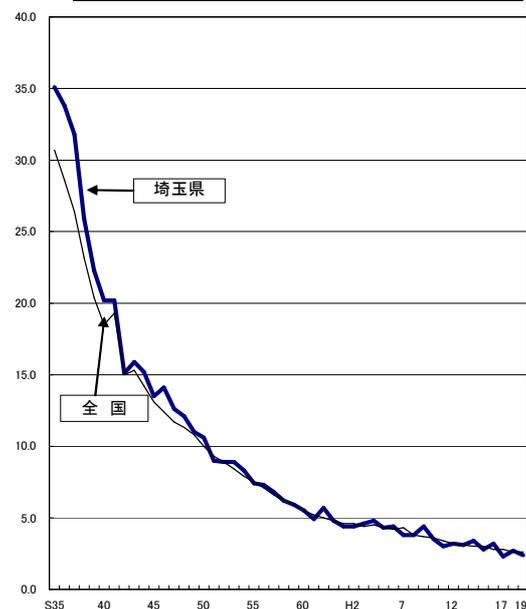
乳児死亡のうち新生児死亡数は、69人で前年より9人減少した。新生児死亡率は、出生千人に対し1.1で前年の1.3を0.2ポイント下回った。

全国は、乳児死亡率2.6、新生児死亡率1.3であった。

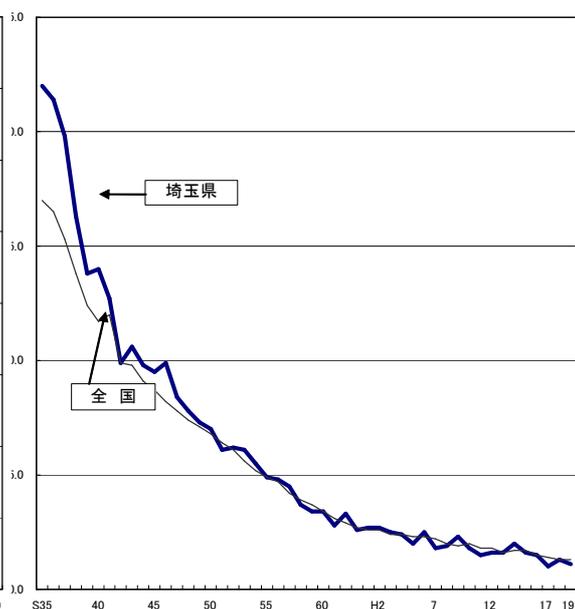
表－19 乳児死亡及び新生児死亡の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	18	19	
乳児	数	埼玉県	1 523	1 348	1 232	1 015	558	369	280	257	210	137	163	147
		全国	49 293	33 742	25 412	19 103	11 841	7 899	5 616	5 054	3 830	2 958	2 863	2 828
	率	埼玉県	35.1	20.2	13.5	10.6	7.4	5.5	4.4	3.8	3.2	2.3	2.7	2.4
		全国	30.7	18.5	13.1	10.0	7.5	5.5	4.6	4.3	3.2	2.8	2.6	2.6
新生児	数	埼玉県	955	931	869	673	369	228	168	124	105	61	78	69
		全国	27 362	21 260	16 742	12 912	7 796	4 910	3 179	2 615	2 106	1 510	1 444	1 434
	率	埼玉県	22.0	14.0	9.5	7.0	4.9	3.4	2.7	1.8	1.6	1.0	1.3	1.1
		全国	17.0	11.7	8.7	6.8	4.9	3.4	2.6	2.2	1.8	1.4	1.3	1.3

図－17 乳児死亡率の年次推移(埼玉県・全国)



図－18 新生児死亡率の年次推移(埼玉県・全国)



#### (4) 自然増加

平成 19 年の自然増加数（出生数から死亡数を減じたもの）は 10,684 人で前年より 1,938 人減少した。

年次推移をみると、第 2 次ベビーブーム期の昭和 46 ～ 49 年には 75,000 人を超えていたがその後急激に減少し、平成 15 年から 20,000 人を割っている。

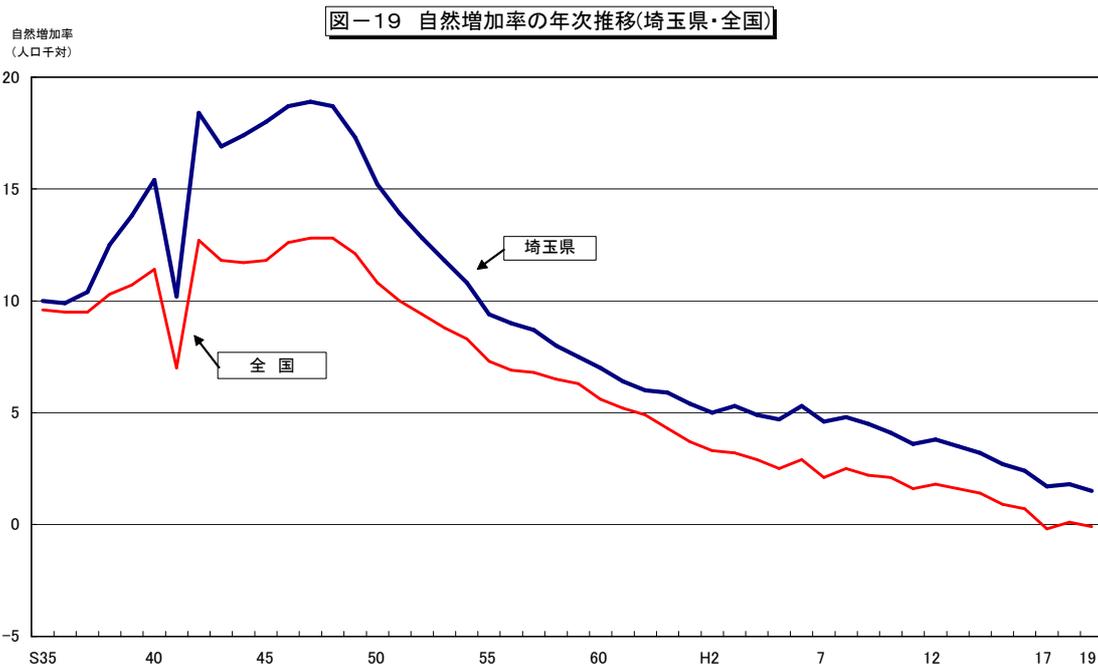
自然増加率は、人口千人に対し 1.5 で前年より 0.3 ポイント低下した。

全国の自然増加率は、△ 0.1 であった。

県内で自然増加数がマイナスの市町村は、70 市町村中 35 市町村であった。

表－ 20 自然増加数及び自然増加率の年次推移

	S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	18	19	
数	埼玉県	24 332	46 468	69 277	73 345	50 961	40 843	32 077	30 951	25 890	11 636	12 622	10 684
	全国	899 442	1 123 259	1 221 277	1 199 165	854 088	679 294	401 280	264 925	228 894	△ 21 266	8 224	△ 18 516
率	埼玉県	10.0	15.4	18.0	15.2	9.4	7.0	5.0	4.6	3.8	1.7	1.8	1.5
	全国	9.6	11.4	11.8	10.8	7.3	5.6	3.3	2.1	1.8	△ 0.2	0.1	△ 0.1



市町村別にみると、高率順では和光市（7.2）、伊奈町（6.5）、戸田市（6.2）の順である。

また、低率順では、東秩父村（△ 9.6）、ときがわ町（△ 7.8）、長瀨町（△ 7.1）の順である。

表－21 市町村別にみた自然増加率（高率順）

順位	市町村	自然増加率	順位	市町村	自然増加率	順位	市町村	自然増加率
1	和光市	7.2	26	入間市	1.2	51	本庄市	△ 2.4
2	伊奈町	6.5	27	桶川市	1.0	52	北川辺町	△ 2.8
3	戸田市	6.2	28	北本市	0.9	53	幸手市	△ 3.0
4	朝霞市	5.5	29	久喜市	0.6	54	騎西町	△ 3.7
5	富士見市	4.1	30	春日部市	0.5	55	寄居町	△ 3.7
6	鶴ヶ島市	3.5	31	蓮田市	0.5	56	嵐山町	△ 3.8
7	吉川市	3.4	32	鷲宮町	0.5	57	吉見町	△ 4.0
8	滑川町	3.2	33	狭山市	0.3	58	小川町	△ 4.1
9	草加市	3.1	34	上里町	0.3	59	秩父市	△ 4.2
10	上尾市	3.0	35	鴻巣市	0.1	60	皆野町	△ 5.2
11	新座市	2.8	36	蕨市	△ 0.1	61	鳩山町	△ 5.2
12	志木市	2.8	37	白岡町	△ 0.2	62	横瀬町	△ 5.2
13	八潮市	2.7	38	東松山市	△ 0.2	63	菖蒲町	△ 5.4
14	さいたま市	2.7	39	熊谷市	△ 0.3	64	越生町	△ 5.4
15	所沢市	2.6	40	日高市	△ 0.3	65	小鹿野町	△ 5.5
16	越谷市	2.6	41	加須市	△ 0.4	66	美里町	△ 5.9
17	川口市	2.5	42	深谷市	△ 0.5	67	神川町	△ 6.3
18	鳩ヶ谷市	2.2	43	杉戸町	△ 0.5	68	長瀨町	△ 7.1
19	三郷市	2.0	44	宮代町	△ 0.6	69	ときがわ町	△ 7.8
20	松伏町	1.9	45	行田市	△ 1.1	70	東秩父村	△ 9.6
21	ふじみ野市	1.7	46	川島町	△ 1.6			
22	栗橋町	1.6	47	飯能市	△ 2.0			
23	坂戸市	1.4	48	大利根町	△ 2.1			
24	川越市	1.3	49	毛呂山町	△ 2.4			
25	三芳町	1.2	50	羽生市	△ 2.4			

注 率は人口千対

## (5) 死産

死産数は1,580胎で、前年より22胎減少した。

死産率は、出産千人(胎)に対し25.3で前年25.5を0.2ポイント下回った。全国(26.2)より、0.9ポイント低くなっている。

また、死産の内訳をみると、自然死産は762胎で前年より35胎減少し、人工死産は818胎で13胎増加した。

表-22 死産数及び死産率の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	18	19	
死産	数	埼玉県	3 794	4 237	4 277	3 795	2 792	2 630	2 324	1 944	1 907	1 637	1 602	1 580
		全国	179 281	161 617	135 095	101 862	77 446	69 009	53 892	39 403	38 393	31 818	30 911	29 313
	率	埼玉県	80.4	59.8	44.8	38.0	35.8	37.6	35.4	27.9	27.9	26.7	25.5	25.3
		全国	100.4	81.4	65.3	50.8	46.8	46.0	42.3	32.1	31.2	29.1	27.5	26.2
自然	数	埼玉県	2 491	3 077	3 307	2 976	2 021	1 521	1 226	1 057	941	780	797	762
		全国	93 424	94 476	84 073	67 643	47 651	33 114	23 383	18 262	16 200	13 502	13 424	13 107
	率	埼玉県	52.8	43.4	34.7	29.8	25.9	21.8	18.7	15.2	13.8	12.7	12.7	12.2
		全国	52.3	47.6	40.6	33.8	28.8	22.1	18.3	14.9	13.2	12.3	11.9	11.7
人工	数	埼玉県	1 303	1 160	970	819	771	1 109	1 098	887	966	857	805	818
		全国	85 857	67 141	51 022	34 219	29 795	35 895	30 509	21 141	22 193	18 316	17 487	16 206
	率	埼玉県	27.6	16.4	10.2	8.2	9.9	15.9	16.7	12.7	14.1	14.0	12.8	13.1
		全国	48.1	33.8	24.7	17.1	18.0	23.9	23.9	17.2	18.1	16.7	15.6	14.5

注 率は出産(出生+死産)千対

図-21 死産率の年次推移(埼玉県・全国)

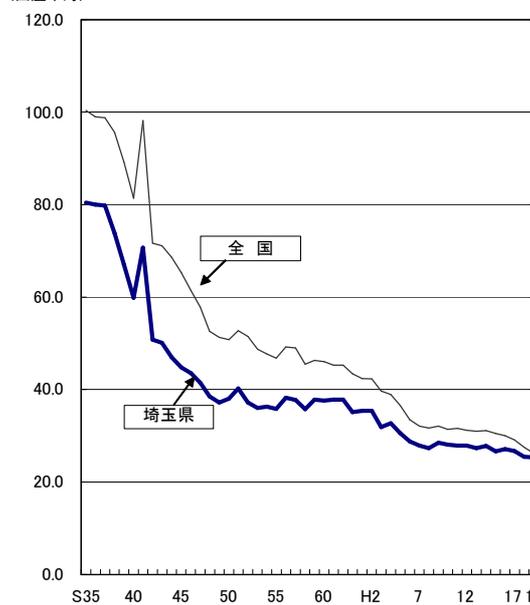
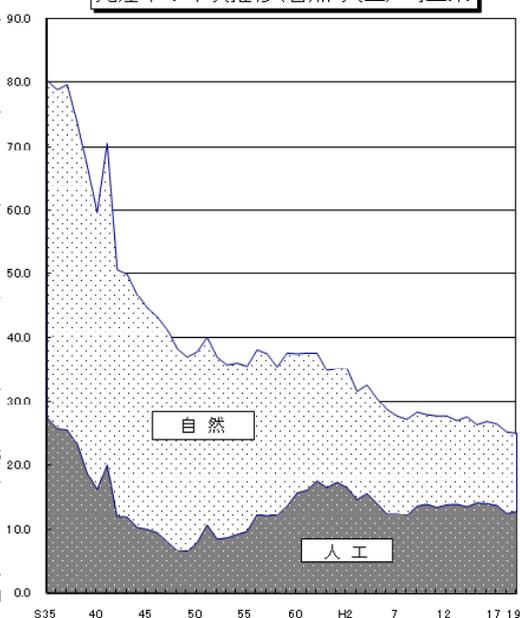


図-22 死産率の年次推移(自然・人工)(埼玉県)



## (6) 周産期死亡

周産期死亡数は258人(胎)で、前年より55人(胎)減少した。

周産期死亡率は、出産千人(胎)に対し4.2で前年より0.9ポイント下回った。全国(4.5)より、0.3ポイント下回っている。

年次推移をみると、長期的に低下傾向にある。

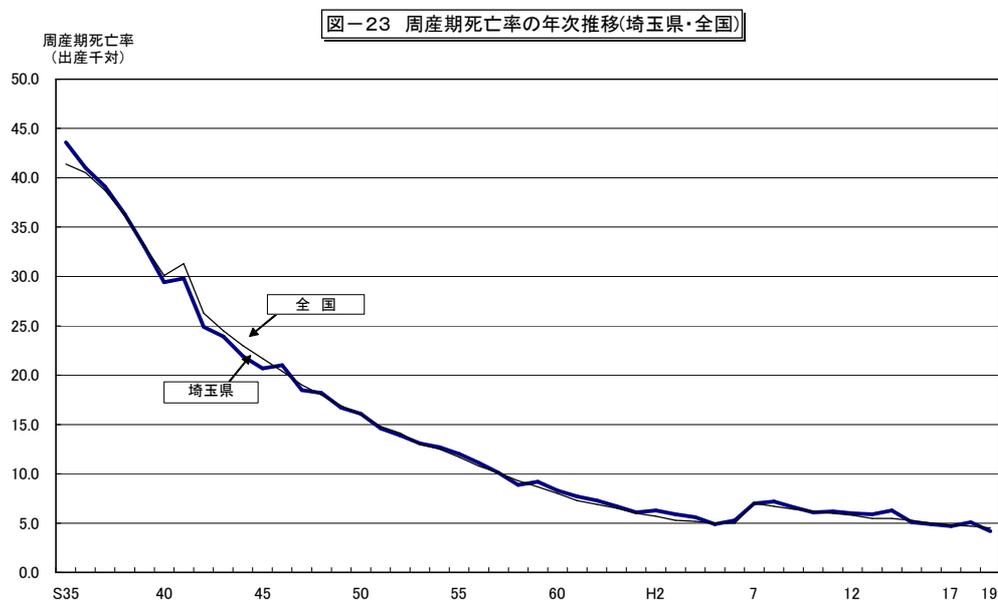
平成7年の上昇は、周産期死亡の定義が変わり、後期死産が「妊娠満28週以後」から「妊娠満22週以後」に改められたことに原因があるものと考えられる。

表-23 周産期死亡数及び周産期死亡率の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	18	19	
周産期死亡	数	埼玉県	1 892	1 956	1 889	1 546	899	555	401	476	397	281	313	258
		全国	66 552	54 094	41 917	30 513	18 385	11 470	7 001	8 412	6 881	5 149	5 100	4 906
	率	埼玉県	43.6	29.4	20.7	16.1	12.0	8.3	6.3	7.0	6.0	4.7	5.1	4.2
		全国	41.4	30.1	21.7	16.0	11.7	8.0	5.7	7.0	5.8	4.8	4.7	4.5
後期死産	数	埼玉県	1 287	1 306	1 213	1 014	603	380	275	385	319	242	261	214
		全国	49 512	39 955	29 107	20 268	12 231	7 733	4 664	6 580	5 362	4 058	4 047	3 854
	率	埼玉県	29.6	19.6	13.3	10.6	8.0	5.6	4.3	5.7	4.8	4.0	4.2	3.5
		全国	30.8	21.9	15.0	10.7	7.8	5.4	3.8	5.5	4.5	3.8	3.7	3.5
早期新生児死亡	数	埼玉県	605	650	676	532	296	175	126	91	78	39	52	44
		全国	17 040	14 949	12 810	10 245	6 154	3 737	2 337	1 832	1 519	1 091	1 053	1 052
	率	埼玉県	13.9	9.8	7.4	5.5	3.9	2.6	2.0	1.3	1.2	0.7	0.8	0.7
		全国	10.6	8.2	6.6	5.4	3.9	2.6	1.9	1.5	1.3	1.0	1.0	1.0

注 周産期死亡率・後期死産率は出産(出生+後期死産数)千対である。

早期新生児死亡率は出生千対である。



## (7) 婚姻

婚姻件数は40,304件で、前年より603件減少した。

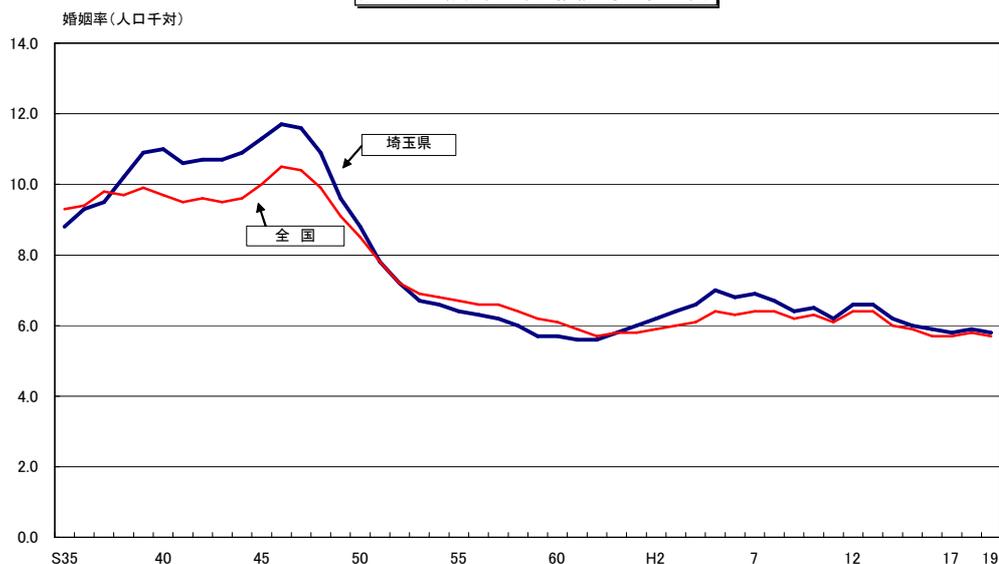
婚姻率は、人口千人に対し5.8で前年より0.1ポイント下回った。全国(5.7)より0.1ポイント上回っている。

婚姻率の年次推移をみると、昭和46年の11.7をピークに低下し、昭和62年(5.6)をボトムに若干上昇した。その後平成14年以降低下を続け、平成18年は5年ぶりに上昇したが、平成19年は再び低下に転じた。

表－24 婚姻件数及び婚姻率の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	18	19
数	埼玉県	21 485	33 131	43 517	42 340	34 708	33 446	39 234	46 224	45 636	40 486	40 907	40 304
	全国	866 115	954 852	1 029 405	941 628	744 702	735 850	722 138	791 888	798 138	714 265	730 971	719 822
率	埼玉県	8.8	11.0	11.3	8.8	6.4	5.7	6.2	6.9	6.6	5.8	5.9	5.8
	全国	9.3	9.7	10.0	8.5	6.7	6.1	5.9	6.4	6.4	5.7	5.8	5.7

図－24 婚姻率の年次推移(埼玉県・全国)

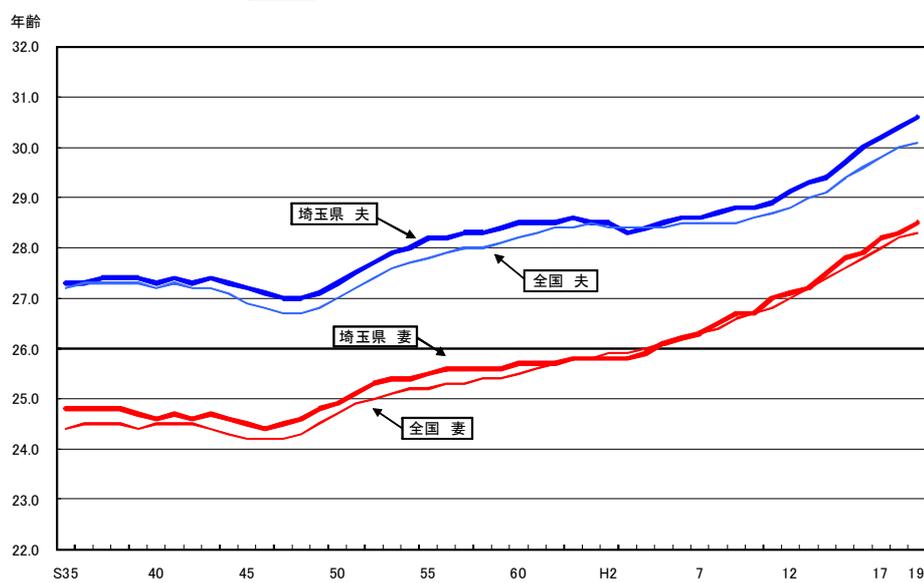


平均初婚年齢は、夫 30.6 歳、妻 28.5 歳で、前年と比べると夫・妻ともに 0.2 歳上昇した。

表－２５ 平均初婚年齢の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	18	19
夫	埼玉県	27.3	27.3	27.2	27.3	28.2	28.5	28.5	28.6	29.1	30.2	30.4	30.6
	全国	27.2	27.2	26.9	27.0	27.8	28.2	28.4	28.5	28.8	29.8	30.0	30.1
妻	埼玉県	24.8	24.6	24.5	24.9	25.5	25.7	25.8	26.3	27.1	28.2	28.3	28.5
	全国	24.4	24.5	24.2	24.7	25.2	25.5	25.9	26.3	27.0	28.0	28.2	28.3

図－25 平均初婚年齢の年次推移(埼玉県・全国)



## (8) 離婚

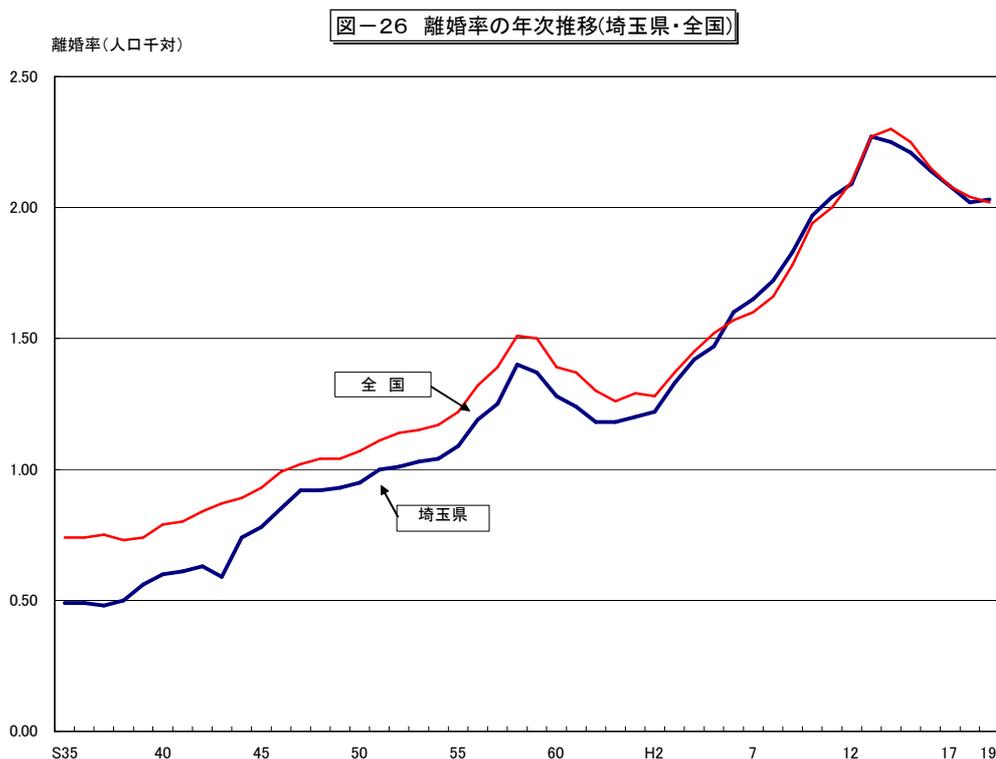
離婚件数は14,201件で、前年より84件増加した。

離婚率は、人口千人に対し2.03で前年より0.01ポイント上昇した。全国は、2.02であった。

離婚率の年次推移をみると、昭和58年以降は低下傾向にあった。平成元年に上昇に転じ、以後上昇を続けていた。平成13年に低下に転じ、以後低下を続けていたが平成19年は再び上昇に転じた。

表－26 離婚件数及び離婚率の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	18	19
数	埼玉県	1 182	1 797	2 990	4 584	5 901	7 494	7 775	11 062	14 368	14 521	14 117	14 201
	全国	69 410	77 195	95 937	119 135	141 689	166 640	157 608	199 016	264 246	261 917	257 475	254 832
率	埼玉県	0.49	0.60	0.77	0.95	1.09	1.28	1.22	1.65	2.09	2.08	2.02	2.03
	全国	0.74	0.79	0.93	1.07	1.22	1.39	1.28	1.60	2.10	2.08	2.04	2.02



### (9) 合計特殊出生率

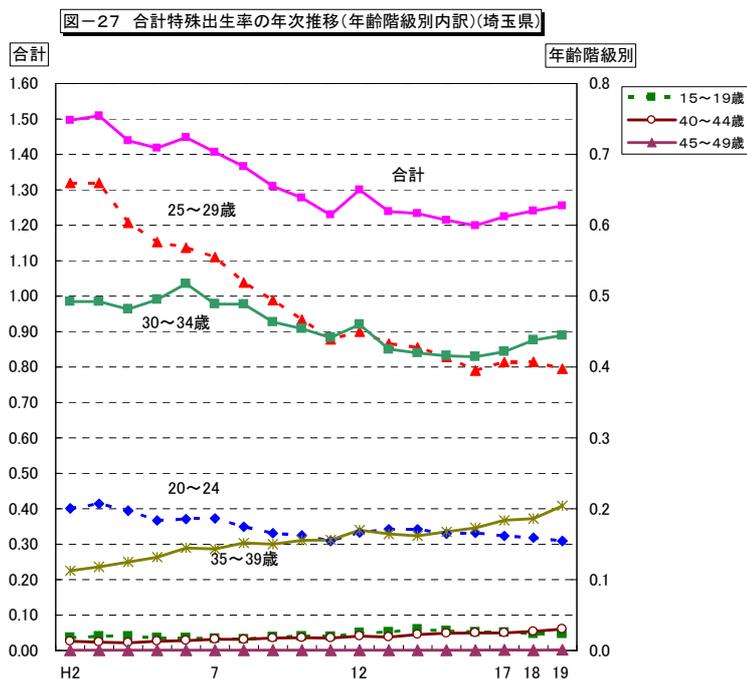
合計特殊出生率は 1.26 で、前年より 0.02 ポイント上回り、3年連続で上昇した。  
 全国は、1.34 である。

母の年齢階級別にみると、20～24歳、25～29歳の年齢階級で低下する一方、30～34歳、35～39歳、40～44歳及び45～49歳の幅広い年齢階級で上昇した。

表-27 合計特殊出生率の年次推移（年齢階級別内訳）

		平成2年	平成7年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年
埼玉県	合計	1.50	1.41	1.30	1.24	1.23	1.21	1.20	1.22	1.24	1.26
	15～19	0.02	0.02	0.02	0.0261	0.0297	0.0276	0.0259	0.0255	0.0234	0.0234
	20～24	0.20	0.19	0.17	0.1711	0.1709	0.1645	0.1659	0.1617	0.1592	0.1545
	25～29	0.66	0.56	0.45	0.4330	0.4276	0.4134	0.3949	0.4071	0.4074	0.3974
	30～34	0.49	0.49	0.46	0.4250	0.4197	0.4148	0.4145	0.4216	0.4379	0.4444
	35～39	0.11	0.14	0.17	0.1641	0.1619	0.1670	0.1731	0.1835	0.1860	0.2042
	40～44	0.01	0.02	0.02	0.0189	0.0225	0.0241	0.0247	0.0246	0.0269	0.0302
	45～49	0.00	0.00	0.00	0.0005	0.0005	0.0006	0.0005	0.0007	0.0005	0.0010
全国	合計	1.54	1.42	1.36	1.33	1.32	1.29	1.29	1.26	1.32	1.34

注 分母に用いた人口は「平成19年10月1日現在推計人口(5歳階級別総人口)」(総務省統計局)。



(10) 保健所別にみた人口動態

平成19年の人口動態統計の結果を保健所別に前年と比較すると以下のとおりとなった。

表-28 保健所別にみた出生数及び出生率（対前年比較）

	出生数			出生率		
	平成19年	平成18年	増減	平成19年	平成18年	増減
県計	60 818	61 201	△ 383	8.7	8.8	△ 0.1
さいたま市	10 837	10 885	△ 48	9.0	9.1	△ 0.1
川越市	2 792	2 768	24	8.3	8.3	-
川口	7 215	7 337	△ 122	9.7	10.0	△ 0.3
朝霞	4 275	4 237	38	10.0	10.0	-
鴻巣	4 516	4 610	△ 94	8.6	8.8	△ 0.2
所沢	7 497	7 732	△ 235	8.4	8.7	△ 0.3
東松山	1 424	1 482	△ 58	6.4	6.6	△ 0.2
秩父	846	780	66	7.5	6.9	0.6
本庄	1 046	1 102	△ 56	7.5	7.9	△ 0.4
熊谷	3 132	3 123	9	8.1	8.1	-
加須	1 891	1 809	82	7.3	7.0	0.3
春日部	2 329	2 376	△ 47	7.8	7.9	△ 0.1
越谷	7 792	7 657	135	9.1	9.0	0.1
幸手	2 390	2 406	△ 16	7.1	7.1	-
坂戸	2 836	2 897	△ 61	7.5	7.7	△ 0.2

注 率は人口千対

表－２９ 保健所別にみた死亡数及び死亡率（対前年比較）

	死亡数			死亡率		
	平成19年	平成18年	増減	平成19年	平成18年	増減
県計	50 134	48 579	1 555	7.2	7.0	0.2
さいたま市	7 609	7 563	46	6.3	6.3	-
川越市	2 344	2 313	31	7.0	6.9	0.1
川口	5 130	4 949	181	6.9	6.8	0.1
朝霞	2 385	2 369	16	5.6	5.6	-
鴻巣	3 438	3 357	81	6.5	6.4	0.1
所沢	5 737	5 669	68	6.4	6.4	-
東松山	1 870	1 816	54	8.4	8.1	0.3
秩父	1 380	1 253	127	12.3	11.1	1.2
本庄	1 401	1 376	25	10.0	9.8	0.2
熊谷	3 395	3 219	176	8.8	8.3	0.5
加須	2 292	2 351	△ 59	8.8	9.0	△ 0.2
春日部	2 165	2 124	41	7.2	7.1	0.1
越谷	5 490	5 097	393	6.4	6.0	0.4
幸手	2 611	2 400	211	7.7	7.1	0.6
坂戸	2 887	2 723	164	7.7	7.2	0.5

注 率は人口千対

表－３０ 保健所別にみた乳児死亡数・率及び新生児死亡数・率（対前年比較）

	乳児死亡数			乳児死亡率			新生児死亡数			新生児死亡率		
	平成19年	平成18年	増減	平成19年	平成18年	増減	平成19年	平成18年	増減	平成19年	平成18年	増減
県計	147	163	△ 16	2.4	2.7	△ 0.3	69	78	△ 9	1.1	1.3	△ 0.2
さいたま市	22	31	△ 9	2.0	2.8	△ 0.8	14	14	-	1.3	1.3	-
川越市	12	4	8	4.3	1.4	2.9	5	-	5	1.8	0.0	1.8
川口	19	13	6	2.6	1.8	0.8	8	4	4	1.1	0.5	0.6
朝霞	14	9	5	3.3	2.1	1.2	5	6	△ 1	1.2	1.4	△ 0.2
鴻巣	9	12	△ 3	2.0	2.6	△ 0.6	3	6	△ 3	0.7	1.3	△ 0.6
所沢	15	18	△ 3	2.0	2.3	△ 0.3	8	10	△ 2	1.1	1.3	△ 0.2
東松山	2	5	△ 3	1.4	3.4	△ 2.0	1	4	△ 3	0.7	2.7	△ 2.0
秩父	-	2	△ 2	0.0	2.6	△ 2.6	-	2	△ 2	0.0	2.6	△ 2.6
本庄	3	2	1	2.9	1.8	1.1	1	-	1	1.0	0.0	1.0
熊谷	14	10	4	4.5	3.2	1.3	5	2	3	1.6	0.6	1.0
加須	4	2	2	2.1	1.1	1.0	1	2	△ 1	0.5	1.1	△ 0.6
春日部	7	7	-	3.0	2.9	0.1	4	5	△ 1	1.7	2.1	△ 0.4
越谷	13	26	△ 13	1.7	3.4	△ 1.7	6	12	△ 6	0.8	1.6	△ 0.8
幸手	8	11	△ 3	3.3	4.6	△ 1.3	5	8	△ 3	2.1	3.3	△ 1.2
坂戸	5	11	△ 6	1.8	3.8	△ 2.0	3	3	-	1.1	1.0	0.1

注 率は出生千対

表－３１ 保健所別にみた自然増加数及び自然増加率（対前年比較）

	自然増加数			自然増加率		
	平成19年	平成18年	増減	平成19年	平成18年	増減
県計	10 684	12 622	△ 1 938	1.5	1.8	△ 0.3
さいたま市	3 228	3 322	△ 94	2.7	2.8	△ 0.1
川越市	448	455	△ 7	1.3	1.4	△ 0.1
川口	2 085	2 388	△ 303	2.8	3.3	△ 0.5
朝霞	1 890	1 868	22	4.4	4.4	-
鴻巣	1 078	1 253	△ 175	2.0	2.4	△ 0.4
所沢	1 760	2 063	△ 303	2.0	2.3	△ 0.3
東松山	△ 446	△ 334	△ 112	△ 2.0	△ 1.5	△ 0.5
秩父	△ 534	△ 473	△ 61	△ 4.8	△ 4.2	△ 0.6
本庄	△ 355	△ 274	△ 81	△ 2.5	△ 2.0	△ 0.5
熊谷	△ 263	△ 96	△ 167	△ 0.7	△ 0.2	△ 0.5
加須	△ 401	△ 542	141	△ 1.5	△ 2.1	0.6
春日部	164	252	△ 88	0.5	0.8	△ 0.3
越谷	2 302	2 560	△ 258	2.7	3.0	△ 0.3
幸手	△ 221	6	△ 227	△ 0.7	-	△ 0.7
坂戸	△ 51	174	△ 225	△ 0.1	0.5	△ 0.6

注 率は人口千対

表－３２ 保健所別にみた死産数及び死産率（対前年比較）

	死産数			死産率			自然死産率			人工死産率		
	平成19年	平成18年	増減	平成19年	平成18年	増減	平成19年	平成18年	増減	平成19年	平成18年	増減
県計	1 580	1 602	△ 22	25.3	25.5	△ 0.2	12.2	12.7	△ 0.5	13.1	12.8	0.3
さいたま市	232	248	△ 16	21.0	22.3	△ 1.3	10.6	9.6	1.0	10.4	12.7	△ 2.3
川越市	78	77	1	27.2	27.1	0.1	10.8	11.2	△ 0.4	16.4	15.8	0.6
川口	211	179	32	28.4	23.8	4.6	15.6	15.6	-	12.8	8.2	4.6
朝霞	106	112	△ 6	24.2	25.8	△ 1.6	12.3	12.2	0.1	11.9	13.6	△ 1.7
鴻巣	101	103	△ 2	21.9	21.9	-	11.3	8.5	2.8	10.6	13.4	△ 2.8
所沢	194	202	△ 8	25.2	25.5	△ 0.3	11.8	15.3	△ 3.5	13.4	10.2	3.2
東松山	37	44	△ 7	25.3	28.8	△ 3.5	13.0	16.4	△ 3.4	12.3	12.5	△ 0.2
秩父	26	18	8	29.8	22.6	7.2	8.0	8.8	△ 0.8	21.8	13.8	8.0
本庄	45	39	6	41.2	34.2	7.0	28.4	21.9	6.5	12.8	12.3	0.5
熊谷	89	99	△ 10	27.6	30.7	△ 3.1	14.3	16.4	△ 2.1	13.3	14.3	△ 1.0
加須	49	38	11	25.3	20.6	4.7	11.9	10.8	1.1	13.4	9.7	3.7
春日部	59	57	2	24.7	23.4	1.3	10.9	9.9	1.0	13.8	13.6	0.2
越谷	206	245	△ 39	25.8	31.0	△ 5.2	11.0	14.2	△ 3.2	14.8	16.8	△ 2.0
幸手	67	69	△ 2	27.3	27.9	△ 0.6	11.0	13.7	△ 2.7	16.3	14.1	2.2
坂戸	80	72	8	27.4	24.3	3.1	11.7	9.1	2.6	15.8	15.2	0.6

注 率は出産(出生+死産)千対

表－３３ 保健所別にみた周産期死亡数及び周産期死亡率（対前年比較）

	周産期死亡数			周産期死亡率			後期死産率			早期新生児死亡率		
	平成19年	平成18年	増減	平成19年	平成18年	増減	平成19年	平成18年	増減	平成19年	平成18年	増減
県 計	258	313	△ 55	4.2	5.1	△ 0.9	3.5	4.2	△ 0.7	0.7	0.8	△ 0.1
さいたま市	47	53	△ 6	4.3	4.8	△ 0.5	3.2	3.9	△ 0.7	1.1	0.9	0.2
川越市	11	12	△ 1	3.9	4.3	△ 0.4	2.1	4.3	△ 2.2	1.8	-	1.8
川 口	38	37	1	5.2	5.0	0.2	4.7	4.6	0.1	0.6	0.4	0.2
朝 霞	20	21	△ 1	4.7	4.9	△ 0.2	3.7	3.5	0.2	0.9	1.4	△ 0.5
鴻 巣	19	24	△ 5	4.2	5.2	△ 1.0	4.2	4.1	0.1	0.0	1.1	△ 1.1
所 沢	25	32	△ 7	3.3	4.1	△ 0.8	2.7	3.5	△ 0.8	0.7	0.6	0.1
東松山	7	13	△ 6	4.9	8.7	△ 3.8	4.2	6.7	△ 2.5	0.7	2.0	△ 1.3
秩 父	2	5	△ 3	2.4	6.4	△ 4.0	2.4	5.1	△ 2.7	0.0	1.3	△ 1.3
本 庄	6	4	2	5.7	3.6	2.1	4.8	3.6	1.2	1.0	-	1.0
熊 谷	14	21	△ 7	4.5	6.7	△ 2.2	3.5	6.0	△ 2.5	1.0	0.6	0.4
加 須	8	8	-	4.2	4.4	△ 0.2	4.2	3.9	0.3	-	0.6	△ 0.6
春日部	12	7	5	5.1	2.9	2.2	4.3	2.1	2.2	0.9	0.8	0.1
越 谷	25	43	△ 18	3.2	5.6	△ 2.4	2.8	4.9	△ 2.1	0.4	0.7	△ 0.3
幸 手	11	25	△ 14	4.6	10.3	△ 5.7	3.3	7.4	△ 4.1	1.3	2.9	△ 1.6
坂 戸	13	8	5	4.6	2.8	1.8	4.2	2.1	2.1	0.4	0.7	△ 0.3

注 周産期死亡率・後期死産率は出産（出生＋後期死産）千対  
早期新生児死亡率は出生千対

表－34 保健所別にみた婚姻件数及び婚姻率（対前年比較）

	婚姻件数			婚姻率		
	平成19年	平成18年	増減	平成19年	平成18年	増減
県計	40 304	40 907	△ 603	5.8	5.9	△ 0.1
さいたま市	7 113	7 346	△ 233	5.9	6.2	△ 0.3
川越市	1 813	1 881	△ 68	5.4	5.6	△ 0.2
川口	5 292	5 345	△ 53	7.2	7.3	△ 0.1
朝霞	2 929	2 981	△ 52	6.8	7.0	△ 0.2
鴻巣	2 748	2 819	△ 71	5.2	5.4	△ 0.2
所沢	4 971	5 019	△ 48	5.6	5.7	△ 0.1
東松山	962	926	36	4.3	4.2	0.1
秩父	463	477	△ 14	4.1	4.2	△ 0.1
本庄	685	678	7	4.9	4.8	0.1
熊谷	2 040	1 948	92	5.3	5.0	0.3
加須	1 217	1 186	31	4.7	4.6	0.1
春日部	1 546	1 664	△ 118	5.2	5.5	△ 0.3
越谷	5 146	5 194	△ 48	6.0	6.1	△ 0.1
幸手	1 603	1 627	△ 24	4.7	4.8	△ 0.1
坂戸	1 776	1 816	△ 40	4.7	4.8	△ 0.1

注 率は人口千対

表－３５ 保健所別にみた離婚件数及び離婚率（対前年比較）

	離婚件数			離婚率		
	平成19年	平成18年	増減	平成19年	平成18年	増減
県計	14 201	14 117	84	2.03	2.02	0.01
さいたま市	2 222	2 161	61	1.85	1.81	0.04
川越市	633	664	△ 31	1.89	1.99	△ 0.10
川口	1 796	1 852	△ 56	2.43	2.53	△ 0.10
朝霞	923	882	41	2.15	2.08	0.07
鴻巣	950	995	△ 45	1.81	1.89	△ 0.08
所沢	1 774	1 717	57	1.99	1.93	0.06
東松山	364	385	△ 21	1.64	1.73	△ 0.09
秩父	209	194	15	1.86	1.71	0.15
本庄	276	301	△ 25	1.98	2.15	△ 0.17
熊谷	668	733	△ 65	1.72	1.89	△ 0.17
加須	475	480	△ 5	1.83	1.85	△ 0.02
春日部	611	574	37	2.04	1.91	0.13
越谷	2 001	1 957	44	2.33	2.30	0.03
幸手	579	552	27	1.71	1.63	0.08
坂戸	720	670	50	1.91	1.78	0.13

注 率は人口千対